建築ト社會

第六輯　第八号



いのちのたぐひ

大正十二年八月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニモ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭、理事長ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事ノ之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主事　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス但シ會頭ニ於テ之ヲ任命シ有給トス

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ常議委員ト互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨記委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ發表スルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ガ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　議事錄ノ頒行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二　第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ前後兩項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別贊助員ハ特別贊助員年額金九圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助員年額金六圓ヲ前納スヘシ

但六箇以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產信託義務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

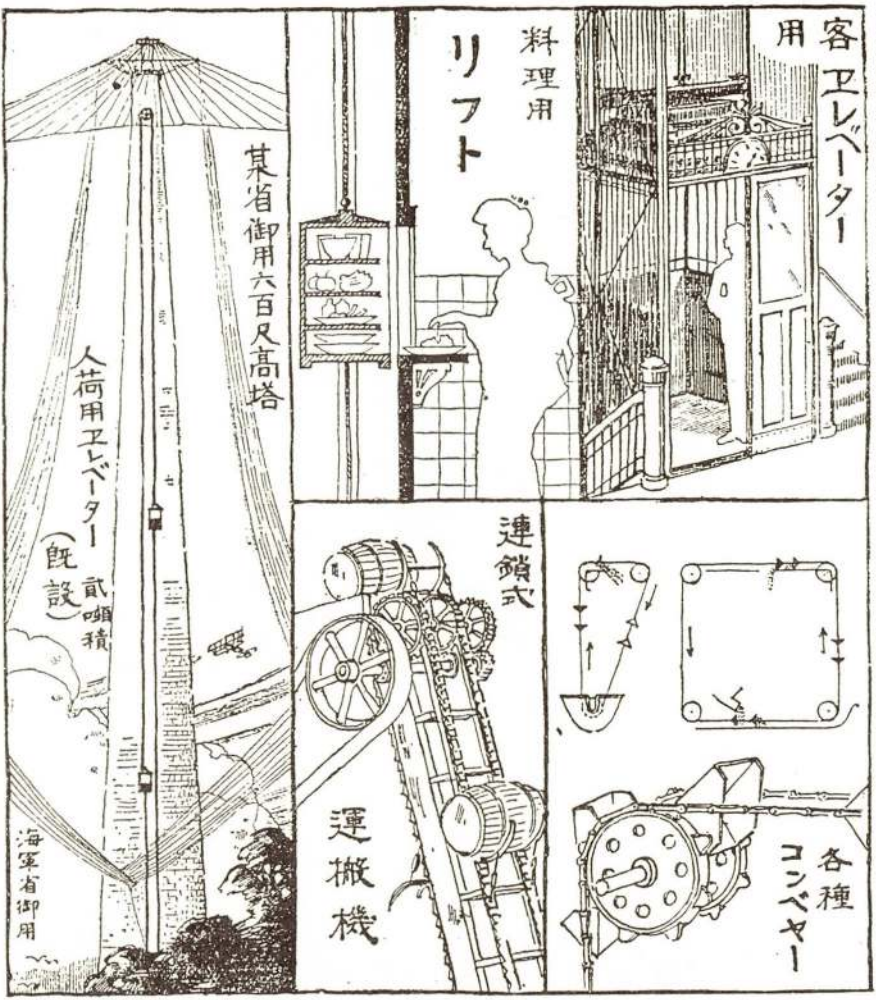
本會ノ財產信託義務及每年ノ收支ハ理事會ニ於テ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの權威

（專賣特許六件）



㊥日本エレベータ製造株式會社

本社　大阪市東區中道西川町　電話東番三二六三七五〇八

出張所　東京市丸ノ内海上ビルヂング六階　電話丸ノ内二二〇二番

◎製品營業　エレベーター、コンベヤー。エスカレーター其他捲揚機械設計製作　リフト、ケーブルカー、ホイスト



建築と

第六輯

口絵　新築成れる株式會社山口銀行本店

〔巻頭〕

◆無始と無終と創造……

〔論說〕

◆帝國ホテルの建築に就ての考察……工學士・本野精吾・二

◆防火地區の指定と建築費の補助に就いて……工學士・園部文雄・七

◆學校の建築……山本良吉・二

〔研究〕

◆『帝國ホテル』に就て……伊藤正文・一九

〔住宅〕

◆『家庭』たるべき住宅に關聯して……田中清志・二四

〔都市〕

◆五大都市に於ける建築の大勢……一記者・二九



社會　第八號目次

◆進め過群より花園へ……都市計畫技師・大屋　靈城　三六

〔資　料〕

◆最近の都市雜誌より……Z　Y　生・四一

◆埃及旅行記（二）……工學博士・八戸成蟲樓・五二

〔講　演〕

◆淨化裝置に就て……工學士・米元　晋一・五九

〔史　傳〕

◆イニゴ、ジョンス生誕三百五十年紀念に際して……池田谷久吉　六四

〔漫　錄〕

◆郵船ビルデイングの新築……黑田　鵬心・六九

◆北米の一都市から……山邑　弘・七四

◆滿鮮紀行（二）……波江　悌夫　八三

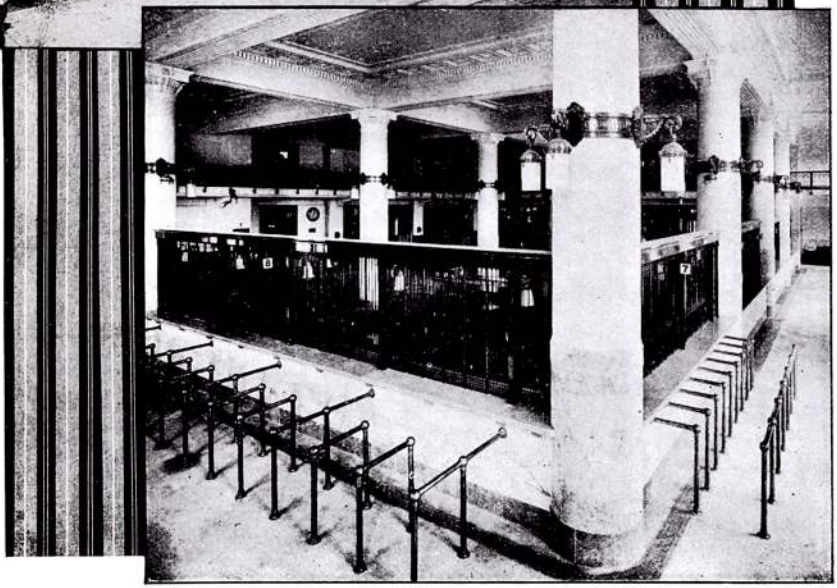
〔會　報〕

◆日本建築協會七月中記事


川北扇風機
大阪北區堂邊橋
福岡東中洲町
東京驛前海上ビルデングン・台北本町
北川電氣企業社

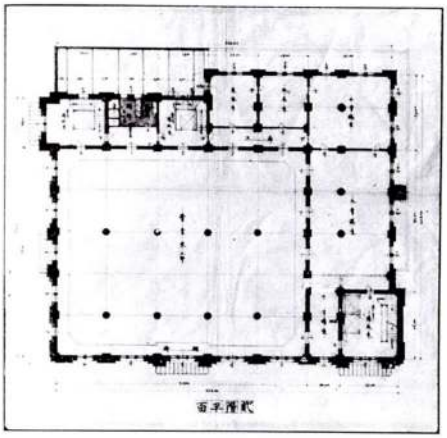
株式會社山口銀行本店新築ノ外面

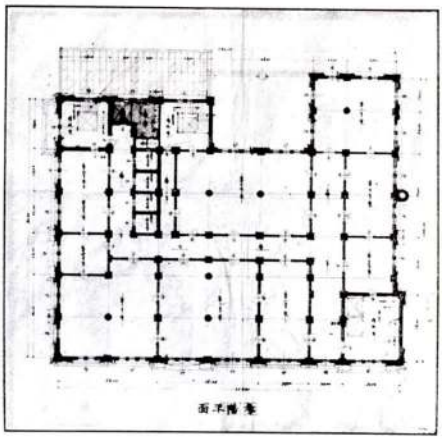


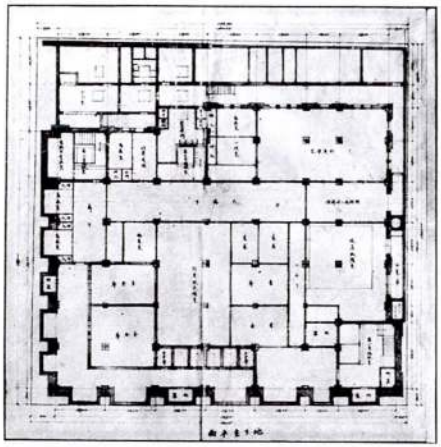


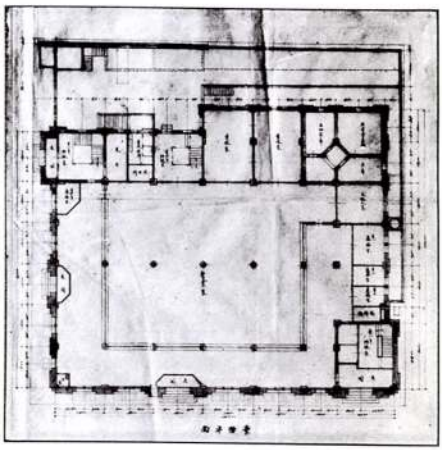
同上内部營業室取引場

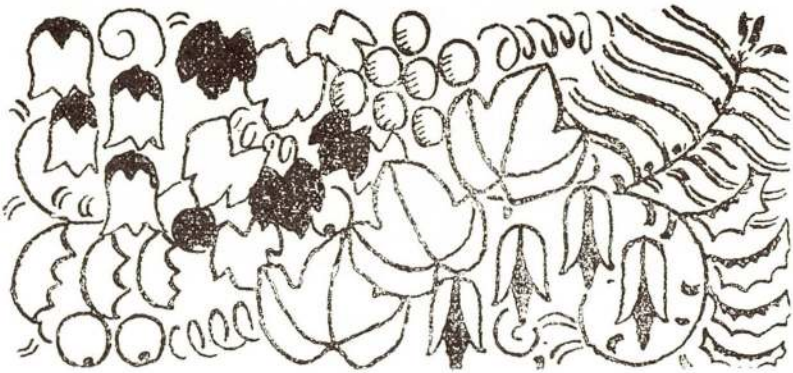
株式會社山口銀行本店新築ノ平面圖





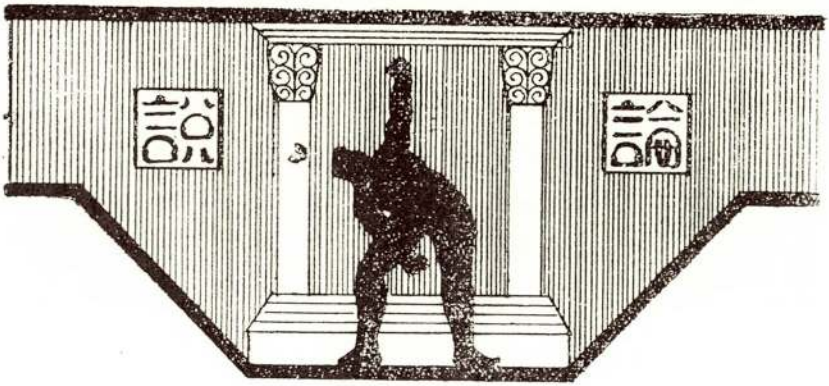






無始と無終と創造

詩人は歌つた「終はない、何物にも同様に始があつて始まつたものもないたゞ時があるそしてその中に總てのものが生きてゐる」と。左なり、「たゞ時がある」「時」は「凡てを創る者」の情意だ、創られたる我等はその中に自らを創つてゐる。（郊邨）



帝國ホテルの建築に就いての一考察

工學士　本野精吾

問題の出發點――軒の處に大谷石を一間半と突出させてソレを何かの手段で支へ居ると云ふ事は建築として何う考ふべき事だらうかと云ふ一つの提案から出發したいのであります。私が之から述べ樣と致します事は直接斯の問題に觸れる點は少ないかもしれませんが、あのホテルの建築に對する一面の考察として讀んで頂き度いと想ひます。

ライト氏の建築に對する根本問題――私がベルリンに居りました一九一〇年の頃、ライト氏は米國で珍らしい建築家として歐洲に傳へられました。其頃ドイツ人はセ、ッションの擴張だと云つて居ました。外形に於てセ、ッショニストのやり方に共通點を認められる點がありますが。けれども其の後ライト氏の建築にしむ事が出來る樣になつてから根底に相違のある事を發見しました。一言でそれを申しますと、セ、ッションストは形體と構造との合理的融合と云ふ點に創業の基礎を置いて居る事。

ライト氏は構造を表現の手段として使用して居る事。

此の點は此の度帝國ホテルの建築を其行程と共に見る事が出來て益々明瞭になりました。此の事を證據立てる澤山の部分があの中に認められます。本文の問題の出發點でありますから。大谷石の事も其の一つでありましやう。モツト大きな問題は一番肯後の劇場の附近であると想ひます（今此の場所が何處であつたかを確かに指摘する事は出來ません）非常に大きな壁と屋根全體とを二階の床あたりの高さの處で非常に突出したカンテレバーで支へなければならない事になつて、其の當時構造擔當の技術者は其の寧ろ愚に近い難工事である事を說いて極力ライト氏と抗爭したと云ふ事であります。けれどもライト氏の強硬なる主張に依つて同氏の考通りに進行する事に落着した、と云ふ話しを當時の關係技術者から伺ひました。ソウして丁度其の場所の進行中にコ、ですと云つて示されました。之等は一二の例に過ぎませんけれども考へなければならないのはライト氏の、コウした建築と云ふものに對する心持の根底であります。それが單に自我の立場を維持する頑固なる抵抗であるならば、つまらない事柄でありますが。若し之れが建築の創案に對する情熱の溢れであるならば、建築家としての貴い素質の一つであると想はれます。問題を解決する分岐點はコ、から出發すると想ひます。私がライト氏に親しく面接して、色々の話しを伺つたり、完成した建築場を見たりした私の考の歸結した點は、申す迄もなく後者でありました。私の此の考の歸結點に到達する迄の徑路をコ、で述べる事は餘りに本文の中心點を外れますから略す事に致します。

建築創案の立脚點――ライト氏のコウした徑路を經て生れて來た建築物に對する場合にはドウしても一度は建築創案の立脚點に迄立戻つて考なければなりません。けれどもコウした根本の問題や、廣汎な範圍に亘る事は本文の目的から餘りに遠ざかりますから、最初の問題に立ち歸つて本文の終結を急がうと想ひます。ソ、で大谷石を一間半も持ち出して何かの方法で支へたと云ふ事に就て少し考へて見様と

想ひます。

大谷石——先づ此の石の見た感じよりは石の耐力と云ふ問題に就て考へる事が必要でありましやう。コノ石が早く風化作用を起す石で、建築全體の生命よりは石の生命が短かいならば、ライト氏がコノ石をアノ建築に用ひたと云ふ事は當然不當の事になります。けれども私は此の石の本質に就て此の問題に解決を與へ得る丈の智識を持つて居ませんから、此の事に就ては此の方面に通じて居る方の解決に待ちたいと想ひます。

石を何かの方法で支へる事——今述べ樣とする問題の中心點は此點にあらうと想ひます。此の問題に觸れる前に一度鐵筋コンクリート構造と云ふものを考へて見度いと想ひます。鐵筋コンクリート構造法でフラットに長く持ち出すと云ふ事（此の事と帝國ホテルの場合と同じカテゴリーに這入るかドウかと云ふ事は後に讓ります）コノ鐵筋コンクリートの場合は、今では誰も安心してソレに向ふ事が出來ると想ひます。けれどもコレが生れた最初燒瓦や鐵の構造の中に突然に鐵筋コンクリートが生れた頃は、誰しも此の持送りのない突出を危なげに感じた事と想ひます。少なくとも私はソウ感じました。如何に智識が危ふくない事を證明しても、ドウする事も出來ない感能の世界に迄一氣に踏み込む事は出來ませんでした。けれども永い經驗と習慣とは遂に安心して之れに對する事の出來る境地に迄私を導き入れました。鐵筋コンクリートが初めて發明された最初の動機は、あるフランスの植木屋がコンクリートの棒の中に鐵棒を入れたものを造つたら、ソレが異常の力を支へ得たと云ふ事から、學者間の問題に上り初めたと云ふ事です。此の時造られた外觀は全然只のコンクリートの棒が異常の力を支へるとすれば、ソレを誰しも初めは危く見た事には充分に想像される根據を認めます。問題は之れで解決する事が出來ると想ひます。現代の科學で一間半計り突出した石を完全に支へる方法を考へる事は當然出來ます。コウ云ふ事を明らかに意識し乍ら尙ほ危さを感ずるのは丁度前に申しましたコンクリートの持ち出しに危ふさ

を感じたのと同じ場合ではなからうかと想ひます。ソレで若し大谷石が脆くしてコンな場所に用ゆるのに不適當で實際缺けて落ちる憂があるならば問題は別でありますけれども石をコウ云ふ風に用ゆると云ふ根本の考は受け入れられると想ひます。

工事と費用との關係に就て――此事は少し本文の中心點を外れます。けれども間接の關係がありますから少しく述べて見度いと想ひます。ライト氏のアヽしたやり方は工事丈の上から見ても比較的尨大な費用を要する事は考へられます。此の問題は結局程度の問題でありまして、設計創案の企劃とソレに要する費用に對する考慮との間のバランスを何の邊に取るかと云ふ問題に歸着します。ライト氏は設計創案の企劃に大きなウェイトをかけたものと解釋する事が適當と想ひます。此の事が現代の經濟組織の下に生れる建築として適當であるや否やと云ふ事は自ら別の問題に屬します。ライト氏の企劃の根本を受け入れる事と此の事とは二つに分けて考へる事が當を得て居ると想はれます。ライト氏は余の建築は五十年後の建築であると云はれたと云ふ事を直屬の技術者から聞きました。茲に何う云ふ考が伏在して居るのか、或は單なる意味淺き言葉であるかは私には分りませんけれども、同氏の如き革命的の傾向を持つた人は現代社會組織　或は人類一般の狀態に就て深い考慮を廻らした後現代に對する根底的疑問に根元を發して居るのではないかとも想はれます。

餘談――ライト氏に就て面白い插話を付け加へて此の項を終る事に致します。東京の某氏が一日ライト氏を日本の茶席に案内して、之は利休好みの茶席であると云つて說明したのだソウです。ソノ茶席は相當現代一般に見る所謂上等の茶席であつたのです。ライト氏は親しくソレを見てから、一時間計りに亘つて利休の精神はコノ種のものではあるまいと云つて講義をしたと云ふ事です。これをあべこべに聞かされた日本人はライト氏が一々本統の事を云つて居る事がヨク分る丈に藝術に對する理解のある人であつたので、何とも返へす言葉を知らなかつたと云つて、其の當人が私に話して呉れました。これはフ

イト氏の一面を知る上に面白いエピソードとして私の頭に殘りました。

構造上の眞と云ふ事に就て――之れも此事に關聯して當日の話題に上つた事であります。ライト氏の大谷石を突出させた事を構造上の眞と云ふ點から何う見るかと云ふ問題です。私は構造上の眞と云ふ問題と少しも矛盾しないと考へます　ソレに就て鐵筋コンクリートと云ふものゝ生れてからの構造と形式（即ち表現）との關係に考へ及ぼすならば此の問題は解決出來ると想ひます。鐵筋コンクリートが生れてから構造上の眞から生れて來る形式と云ふものは殆んど考へられなくなりました。鐵筋コンクリートは殆んど無限に構造上の自由を持つて居る點に於て、他の材料と著しき相違を持つて居ます。即ち何等の不自然なくして樣々な形を自由に構造し得る能方を持つて居ます　即ち構造上の眞と云ふ意味がコンクリートの場合には本來の意義を殆んど失をう程廣い範圍に擴がりました。此の點に關しては構造上の眞と表現の美とが最高の程度に一致して居る完成期のゴシック建築　バリーのセント、チャペルの如きものを指す）と鐵筋コンクリート構造とは其の兩極に居るものと考へるのが至當と想ひます。コウ云ふ考から出發して行きますればライト氏の大谷石の突出は鐵筋コンクリート構造のフエーシングと考へればいゝと想ひます。

以上申し述べました點は、アゝしたやり方は大體に受け入れられると云ふ此の日の話題の中心點丈に就ての私の考でありまして、本項はライト氏の帝國ホテル全體に就ての考察には觸れて居ない事を御斷りして置きます。

（一九二三、七、二一、記）

× × ×

防火地區の指定と建築費の補助に就いて

園部文雄

一

市街地建築物法第十三條の規定に依る防火地區の指定は六大都市中既に發布を見しもの多く、最も遲れて居た所の我大阪市も最近漸く其發布を見るに至つた事は都市の火災豫防上誠に喜ぶべき事である。

唯憾むべきは指定さるべき必要あり、且又指定さるゝ事の當然なりと考へらるゝ地區の多くが、今後擴築されんとする路線の左右に位し於れるが爲、路線擴築後迄其發布を保留さるゝ事となりて、數に於ても亦其位置に於ても、將亦相互の連絡に於ても眞に火災豫防上完全なるものとは言ひ難き事である。

然しながら、この種の指定は路線擴築に伴ひ漸次追加・改訂せらるべければ或一團の敷地ノ〳〵か縱横十文字に防火構造を以て圍繞せらるゝの日も遠くはあるまじく、昔の如く膨大なる地域が一朝にして燃へ盡す如き大火事が其跡を絶ち、火災の損害を局限、縮少せしむる事が出來るのも近き將來の事となるであらうと思はれる。

これは都市生活の上より見て誠に緊要の事であつて、吾人はなるべく其日の早く來らん事を熱望する次第である。

二

然しながら、こゝに考へねばならぬ事は防火地區として指定せられた地區の土地並に家屋所有者の事である。

謂ふまでもなく、防火地區として指定せられた地區に、今後家を建てんとすれば必ず甲種なり　又は乙種なりの防火構造の家屋を建てねばならぬのである。

この事は都市大層の上より見て必要なるが故に定められた事であり、指定に於ても土地の狀況に應じ愼重審議の上、甲種なり又は乙種なり、程度に差別を附して指定せられたのであるが、要するに其地區の土地所有者に對しては或種の義務を負擔せしめた事になるのである、つまり都市の大部分を保護する爲に特定地域の土地所有者に、或種の犧牲を拂はすといつた樣な事になるのである。

土地の狀況によつては、今迄の如き火にあへば燃へやすい倭少、貧弱な木造の平家又は二階建を建てゝ居る事は土地利用の上より見て甚贅澤、不經濟な遣方たるを免れないが爲と、其附近に金持が多い爲に放つて置いても自發的に堂々たる甲種の防火構造家屋が建ち並ぶ所もありませう。又甲種ならずとするも、乙種程度の防火構造家屋が軒を並ぶる所もあり、今回指定せられた地區は何れもこれらの何れかに相當する場所のみである事も信じて疑はない所であるが、將來追加指定さるゝ場合は、この種の都合のよい地區のみとは限らないであらうと推測される。

又左樣な土地をも包抱せしめなければ本統の意味の防火網とならぬのである。

三

こゝに於て吾々はこの種犧牲——一部は勿論自己の爲であるか——になつた土地所有者の事をも考へ

ねばならぬのである。

防火構造の家屋を築造する事は勿論自己の生命、財産を防護する事に於て必要であり、堂々たる家屋を保有する事は商略其他の上より見ても有形、無形の利益はあるであらうが、一面懐具合といふ事が場合によれば其以上の大偉力を持つて居る事も亦爭はれない事實である。して見ればなけ無しの金を費つて防火構造の家を建て都市火災豫防の第一線に立つといふ事は自發的に、この種の家を建て得ない人にとつては可なりの苦痛であるに相違ない。

この人達にいはすれば自己の生命、財産を保護するの必要は我人共に同樣であつて、一團の地域の人々の生命、財産を保護するが爲に我々丈がなけ無しの金を絞つて犧牲を拂ふ必要がないといふかも知れない。そうは言はないにしても、餘裕があれば勿論自己の爲でもあるが故に建てゝもよいが今は苦しいのであるから左樣迄の宋裏の仁を施して居る譯には參らぬといふかも知れない。

そして又一部の人々は我々が防火構造の家を建て、利益を受くるものは誰であるかといへば、無論其家屋所有者たる我々が、其大部分の利益を受くる事明であるが　一團の人々もこれが爲尠からざる利益を得るのであるから、其建築費の一部を皆なが補助してもよからうといひ出すかも知れない。

而してこの最後の言ひ分が多くもあらうし又有力なる言葉ではなからうか。

四

話しは少しく岐路へ入り込むが、市内に道路を築設する場合、又は道路に改良を加へる場合、其道路の恩惠を受けるものは勿論一般の市民であるが、其沿道の居住者が他の人々に比して著しく利得を得るといふので、築設、改良に要する費用の一部を受益者負擔として特に或範圍の沿道居住者に負擔せしむる方法が近頃多く取られて居ると聞いて居る。

防火地區に指定せられた地區の居住民は、丁度これと反對な立場にあるのである。その故にこの指定を受けし人々に對して一般居住者より何等かの方法を以て其苦痛を緩和するのは當然の事ではなからうか。

尙一歩進めて考ふれば、一般居住者といふよりも寧ろ國が法律の力を以て拘束したのであるから、國がそれの緩和策を講ずべきではなからうか、……例へば補助金、又は低利資金貸付の方法に依つて……

五

文献に徵して見ても古來我國の家屋は草葺であつて、火災頻發した爲これを板葺となさしめ、其後又瓦葺を奬勵したり、瓦葺の勵行を強制したりして居る、そしてその爲には幕府時代には金を貸出したりして居るのを發見するのである。

世は大正となり、建築技術の進歩と時勢の要求は建築物の構造制限とも昔と一變さして居る。

然しながら、建築をするに金のいる事は昔も今も變りはない。

世の識者からこの點に眼を注がれて何等かの緩和策を講ぜられん事を熱望する。

おほよそにおもひ棄つるなひとすじに

思ひ入りたることは尊し

學校の建築

山本良吉

學校の建築にたづさはつて色々の事が眼につく　その一は學校の建築をどういふものと見るかである　現時の學校建築觀を調べる前に、まづ德川時代のにつき大體の氣分を見たい。德川時代の社會の二大教育力は禪宗と儒教であつた。禪宗は精神的方面で　儒教は世俗的方面で、禪宗の教育は人も知る禪堂でできた、禪堂はその源を宋代の建築に關し、皇室や將軍その他高貴な人々の援助によつてわが國に歸されたものであるから、その建築の御大宏莊なことは他に類がないとも見られ、誠に天上天下唯我獨尊とか、殺佛殺祖といつた大氣魄の養成場たるふさはしい、儒教の方面はといへば、其儒者は多くは政府の錄をはみ、權勢に諂ふ御用學者の觀があつたが、その道を傳へる學校は建築も相當に立派であり、特に擇んでつけられた莊嚴な處にふさふ樣になつて居る。將軍藩王中の篤志者は自分そこへ出て生徒の講義を聽いたり、試驗したこともある位であるから、その儀典に不似合でないだけには建築もできて居た。尤も寺子屋流の小さな民間學校に至つては、よくいへば氣節の士、惡しくいへば食ひはぐれ者が一時の凌ぎに開講して居たのも少なくないので、それ等は畢竟現時の筋のよくない私立學校以上には出でなんだ。しかし中には眞に世を憂へ時を慨する熱烈の士が、名を書に講ずるに借りて風雲の低個を見つめて居た者も少なくなかつた。維新の幕は種々の人によつて上げられたが、その實際の力はこの最後の群に入るべき人々及びその弟子の手によつてゞあらう。これ等の人々は名分、學問道義——實は皆同一物である——の尊重すべきことを知つて居た。王政維新は實に學問の力によつて實現されたのである。しか

しその學問は、偉大なる禪堂でなくても、又は莊嚴らしい藩學でなくても、得られ易く思はれた學問であつた。從つて維新後學問奬勵の必要は度々說かれたが、學校の建築に拂はれた注意の少ないことは、禪寺や藩學を見た者には意外と思はれる位である。

維新は思想上からいへば、外國文明に對する驚嘆に始まり、その必然の伴生として、知的で、啓發的で、そして同時に物質的、分子說的であつた。その時代の人は人心を綜合的で見ることを知らず、たゞ何でも必要な物は勝手に注入さへすれば、それが民族の血とも骨ともなると考へた。妥協とは物理的混合である。妥協的の民族は必然物質的である。中古の和魂漢才的思想は維新當時に於ても、依然わが一般思想界の支配者であつた。一種の誤想からして何の考もなく、佛敎を撲滅せんとし、神佛混合を非とした結果は、苟くも神社と同居した佛敎的要素を全部破壞せんとし、その跡にいかなる精神的要素が殘つて、わが民心を支配すべきかを思はなんだ　神社で以て一方、國民の思想を統一せんとするかと思へば、他方、外國の文明——主として物質的科學——をそのまゝ移入してわが文明を進めんとした。人心の宗敎的方面、道德的方面、美明方面　知的方面は皆別々の存在であつて、そのいづれをも一部分づゝ注意に加除致し得るの思想が、當時局に當つた者の間、または社會全般に渡つて居た。從つて學問は敎授さへすれば足る。知識さへ相當に得られるならば、それで十全な人格だと思はれたらしい、かゝる程度の人に向つて、環境の影響、萬的趣味の價値、從つて學校建築の樣式の、敎育に對する價値などを理解せなんだことを責めるのは、聊か失當の感がある。勿論當時に於ても知育以外德育の必要は形式上は注意されてあつた。しかしそれは知育や環境や主義から相連絡して來ると考へられた德育ではなく、たゞ修身書の敎授に始まり、敎師の實踐躬行を以て終る性質のものであつた。知育は知育、德育は德育、各々別箇の存在を有し、別箇に授づけ得られるものと考へられた。物質的思想は必然そこへ至らねばならぬ。それ故に學校の建築が人の美德に影響し、それが德育に關係し來るなどの考へは毛頭當時の人の

頭にはなかつた。生徒を授業する教室と控所とだにならば學校の仕事はできると考へられた。

この種の學校に生長して來た者が實に今の社會の最上級から最下級までの人々である。現代に於て學校の建築に對し、その事業の性質が要するだけの注意が拂はれぬのは當然である。これはわが社會に金がないとか、技師が拙だといふ理由から來るのではない。金はどこにでもある。それはいつでも社會が最必要と思ふ方向に流れ行く。金の使途を決定する者はいつでも時代の思想である。私が或大學に關係して居たとき、學生集會所の事より（その頭にしては）立派なのができた。政府の方ではそれが贅澤であるとて非難した。私が壁に色紙をはつた、それまで不都合であると批評された。その根抵には餘りに贅澤であるとの感じがあつたのである。現代一般社會の學校建築に對する考はこの程度のものである。

私はこゝで一般の思想界を論評せようとするのではない。たゞ設計者も、實際の工事監督者も、職人も、すべて學校の性質を今少し理解し、學校の壁一つぬるのでも、コンクリートをつめるのでも、そこに不誠實、不注意の結果が現れては、直ちに若いゼネレーションの頭の中へ不誠實粗望な印象を與へかれ等をして自ら日夜の態度を取つても差支ないその氣分をもたしめることを忘れない樣に注文したいのである。最も誠實な氣分を與へるべき學校に於て、丁度その反對な事實が現れ、その中に若いゼネレーションが出入して　絶えずその影響を被らぬばならぬとすること、その結果は實に恐ろしい。建築關係者に於てのかゝる態度は、たゞ教育と建築との關係を知らぬから來るのみではなく、又實に個人の物は大事にせねばならぬが、公共的の物は左程注意するに及ばぬといふ、わが社會の他の思想からも來るのであるが、とにかく民族の將來を思ふ者は、かゝる謬想からは一切脫却せねばならぬ。現代の建築關係者に對してはこれを第一の注文としたい。

第二には更に一歩進んで、教育の内容と建築の意匠とについて考へて見たい。學校にも色々種類はあらうが、大體に於て、生長の氣にみちた青年を收容して益々その氣分を助長すべき處である。生長をシ

ンボルで表せば圓錐形である、平面にすれば三角形である。水平線は生長を抑へる氣分を表すが、決して青年にふさはしい氣分を表はさぬ。學校、性質上、長方形の堆積であつてはならぬ。從來の學校建築は、屋根は日本造の通性として三角形であるが、その他の部分はすべて正方形から成り立つ。その結果は、三角形の底邊の壓力のみを表して、正に生長と反對の氣分を浮べる。殊にその底邊が高さよりも廣くそして建築の高さが低い場合には、感ずるものはたゞ重量の壓迫のみである。

建築が生長を現すためには、內の室、外の窓等もすべてそれに釣り合はねばならぬ。即ち色に於て、大きさに於て、殊に角度に於て、圓錐形又は三角形相當でなくてはならぬ。獨り建築のみでなく、室內の黑板、卓子、椅子までもすべて相當の形をもたねばならぬ。畢竟するに、學校の內外全體が一個の理想を備へた美術品でなくてはならぬ。處〻の學校を見る毎に大抵起るものは混せ合せの感である。玄關と本建築、屋根と壁、門と玄關さへも何の連絡もなく、いづれも別の人が別の原圖から集め來つた感がある。〻建築が一活物の感を與へるのは極めて少ない。明治維新後、物質觀、元子論的思想にあり來つたわが社會一般思想の結果と見れば見られるが、思想の他の方面に於て、既に綜合美觀の程度まで進んだ現時に於て、たゞ金がないとの理由を以て建築のみを舊思想の上に殘して置くことはできぬ。さうすることによつてわが社會は現在に於て既に可なり重い賠償を拂はせられて居る。將來は益々その賠償が重くなるであらう。

第三、學校全體が一個の理想を表した美術品でなくてはならぬが、その部分々々も亦同樣でなくてはならぬ。その一例として私は講堂の建築を擧げたいが、それは曾て本誌に載せて置いたから詳細は略するが、聞けば學校の經濟のために　この頃は雨天體操場と講堂と生徒控所とを共用にする處が少なくないらしい。これ等は講堂が學校に於ていかなる地位を占め、いかなる印象を生徒に與ふべきかを全く度外に置き、たゞ形さへ、名さへ備れば足るといふ形式的思想家の發表である。かゝる講堂のあるのが

果してないより優るかどうかさへ一考の價値があると思ふ。少なくもかゝる講堂に於ては、擧行する式も亦現時社會から要求されて居るものとは全く別のものとならねばならぬ。人心の深い〳〵或物は長方形の白い色のものではないことはどうか考へて見たい。

第四、學校の訓練の中心は　修身課でもなければ競技でもなく、實にその社交にある。社交の中心は學生集會場にある。學生集會場は講堂と相俟つて最も注意を拂はねばならぬ。それは學校のすべての施設の中心部にたてられ、最も注意を引き易い、そして最も温い落附を與へる形式で設計せられねばならぬ。そこで敎師も、學生も、父兄も、先輩も共に温い氣持で　紳士淑女的接解をなし、その間から人間らしい氣分がわき出る樣にせねばならぬ。かゝる設備は最急なものであるが故に、最も人の注意を逸し易く、わが國の學校には大抵缺けて居り、從つて人性的は氣分がすべての學校に分けて居る。敎員を養成する專門の學校に於てかゝる氣分の養成を忘れたがために、國民全體に亘つて人性的氣分を養ひ得ず今に一般敎養といへば極めて見苦しい程度に止まつて居ることは、思へば思ふ程遺憾である。個人的接觸を除いてゞきる訓練はたゞ一般的、概念的のものである。それは理知としては各學生の頭に存しもせようが、稀な場合の外は決してその人のハートとなるものではなく、その人の筋肉を支配し得る性質のものではない。今の如き養成法では狼が野犬を敎育する如き光景を生ずるに過ぎぬ。

集會場は現代流行の學校建築式ではなく、その形に於ても色に於ても相當の深みと温さをを有し、そこに出入する度に一種の親しみや温みをもち待つ樣にしたい。中には一組位の會合室、半數位の會合室　七八人の會合室、人數に制限のないグリル式の室及びそれに附屬して料理場もあつて欲しい。ならば職員來賓も學生と共に同じ室で飲食談話もできる樣にしたい。外部には花壇等で眼を和げることは學校内どこにも欲しいが、殊に集會場に於てはそれが欲しい。そしてその周圍に植込も相當にあつて、それからも深みを添へたいことは勿論である。くれ〳〵も、學校の訓練が修身や成語の語誦位

でするとの物質觀を捨てゝ、人と人との接觸以外には方法がないとの、極めて平凡なしかし全く忘られてある思想を充實し得るだけに設計したい。

第五、これから細部に入るが、建築中で固定性を帶びない物はたゞナップのみである。然るに日本出來のナップは――私は全部といひたい――バネが弱いのか、數回も使へばバカになつてしまふ。建築して一ケ月もたゝぬ中にあのナップもこのナップも皆バカになり、どこの戸もしまらぬとなつては、精神上に異樣の不滿足を來たすのみならず、戸はしめなくてもよいものとの感じを生徒に與へる。實にこの感じは生徒といはず、日本人全體のもつて居るものであり、私の學校では、ドーアは開けたらしめるものとの敎訓を與へるのに半年かゝつた――私の學校の生徒は少なくも小學校では皆一二席を爭つた所謂優等生であり、その家庭も大抵は中以上であることを御知願ひたい――何程生徒の筋肉にこの訓練を與へても、肝要なナップがバカで、何程しめようとしてもしまらぬとあつては、全くその訓練を裏切る。將來は建築界の申合せにより、學校建築の戸のナップには日本製のは全く用ひぬことに改めたい。社會が僅かに代價の安いために粗惡な內地品を使用して居る間は、內地の工業は決して進步せず、その結果は國民の敎養の妨害となる。

第六、ナップの序に戸についていふが、日本の建築技師には、戸はあけたまゝにして置くべきものとの誤信があるのか、廊下の戸などはあけ放しにして置き、一度一度にしめるには不便な樣に設計する傾向はないが、日本の樣に埃の多い都市に於て、廊下の戸をあけ放しにして置いては、敎室までも埃がまひこんで、不潔この上ない。廊下であらうが、敎室であらうが、戸は必ずあけた人がしめるとの思想を實現し得る樣に設計せねばならぬ。私が知つて居る學校の戸が皆開放的にできて居るといふのではないが私の最近の經驗はこの上に於て私を驚かしたことをこゝに明記したい。

第七、鐵筋コンクリートの建築は反響が餘響がひどい、それに對しては相當に用心をして置きたい。

コルクを使用することが困難な場合、石綿でも用ふることはよくないが、柔い木の建築と同樣の設計では不快で又不適當となる。餘響が少しでもあると生徒の注意を散漫にする、その結果は沈着ならぬ性格を造る。

第八、日本の樣に埃の多い泥の海の中を往來せねばならぬ國に於ては、入口に十分の泥落しの設計がなくてはならぬ。それは靴こきや泥落しと雨天の場合の靴洗の外には方法はあるまいが、出入者がそこを通るとき、どうしても利用せねばならぬ如き設備をつけたい。それは殆ど建築の一部分として、廊下への入口の部分に固定的の枠を造り、その中にそれ等器械具を据ゑつけ、そしてそれは隨時取り出して清めも仕替もできる樣にしたい。これ等設備は大玄關にも同樣に欲しい、一體職員來賓入口と生徒入口とを別にするのは、人間間に敎養の差を假定した結果であつて、すべての人間を一樣に敎養するのを目的とした學校に於ては取るべき方法でない。學校では十分の方法を講じ、どの生徒も職員來賓と同じく堂々玄關から出入して、しかも決してそれをよごさない樣に訓練したい。

第九、從つてもし廊下をコンクリート塗のまゝにしたときには、それに溝をつけ、水管で掃除のできる樣にせねばならぬ。

第十、廊下のドーアはできれば勿論內開きにする方がよい、外開になつては、廊下の往來に危險を生ずる。

第十一、三階以上の學校建築にするならば、少なくも二階毎には便所がよくてはならぬ。從つてその便所は皆洗滌式でなくてはならぬ。外國婦人の出入ある學校ならば、是非とも男女便所を別にせねばならぬ。

第十二、壁は上方は明いために白くするもよからうが、廊下及び室內の腰は是非灰色に綠の入つた調子にせねばならぬ。腰壁は白や卵色にしてはならぬ。そしてそれがたゞの壁にはせず、硬いそして滑か

な材料を使はねばならぬ。一寸觸つてすぐ痕がついたり型がついたりする色と質さは學校には不適當である。

第十三、窓下は少なくも三尺許りあるを必要とする。これは危險を防ぐためと、落附をつけるためとである。机と同じ高さの窓下では生徒が落附を失ふ。日本造では大抵三尺ばかりある。外國の窓下には二尺五寸以下のが多いが、それには壁の厚さがわが國で用ひられるコンクリートよりも多いのが多く、そして種々の窓かけを用ふることが多いことを忘れてはならぬ。その上、日本の子供はまだ危險に對する用心などに付いて相當の訓練ができては居らぬ。

第十四、窓の多いのは明くてよいが、餘りに多いと、經常費に非常な金がかゝることを考へねばならぬ。徒らに窓を多くし、いつ洗つたとも知れぬ窓かけを下げて置くのは、訓練上よくはない。窓のスペースはやはり外國の學校で規定してある通りでよい。

第十五、生徒の外套かけ、傘立ちどうするかは學校に取つて大問題である。錠のかゝる室を定めて置くのもよからう。その場合、全生徒としては不便であるから、せめて各組毎にこせねばなるまい。しかし高等學校の如き生徒になると各組毎でも不便である。理想をいへば各生徒に共通かぎをもたせて共通の一室を定めて置くのが最もよい。しかし一度一度に錠を下す樣に日本の子供を訓練するには、尠數十年を要しよう。その上日に數百度開閉しても尚損せぬかぎは日本ではできぬ。國民訓練と經濟の現狀とを考へて、最も實行し易いのは、外套を敎室内につりさげて置くことである。しかしそれは生徒の訓練上極めて悪いが、豫めその積りで敎室を設計すればよからう。

第十六、外部からの入口には必ず手洗と鏡とをつけて置きたい。運動をしたまゝの手で敎室へ入る如きは嚴に戒めねばならぬ。便所に入る毎に手を洗ふ國民が、泥手や電車の下革をつかんだ手で敎室へ入つたり、食事したりするのを怪ぬのは不思議である。生徒に迷信的な潔癖性を養ふには及ばぬ。しかし眞に清潔にすることは是非共敎へたい。

これ等はだゞ氣づいた事を秩序なく述べたのであるが、最後に附記したのは、請負業者及びその使用人の德義心が高まり、普通紳士と同等と看做し得るに至らずば、建築は到底現代人の要求に應ずる程度には仕上られぬことである。

研究



『帝國ホテル』に就いて（一）

——Louis H. Sullivan——

伊藤正文

編輯者よりの御斷り——本篇は先月號に載せる考へで頂戴したのですが、編輯上の都合に依つて、それが只今に延びたのです或は多少憾みがあるかも知れませんが、それは編輯者の責任ですから譯者を責めないやうに願ひます。

最近東京の建築界の呼物として斯界を賑はした新築の帝國ホテルに就て、設計者のフランク、ロイド、ライト氏のアメリカに於ける師であつたサリバン氏が、アーキテクチユラルレコードの五月號紙上にその紹介と批評、否寧ろ賛辭を與へてゐる。可成、氏の立場は唯物論者臭味が濃厚で同意出來ない點が多いと同時に、又ライト氏其人の作品に對しても自分はいやな感を持たせられる。し

かし私達の立場としては今此建築に對する直接の批評を呈する事を差控へ、只サリバン氏の紹介文を重ねて抄譯的に紹介するに止めよう。

世界の大舞臺面に於て　強大なる思想上の二潮流が對抗して立つた有樣は流石に觀者をして手に汗を握らしめる感があるのは現下の狀勢である。此頃丁度此心持を具體的にぴつたりと感ぜしめられるのは東京の帝國ホテルについて、勇氣の最高の現れとして見られる時に於てである。惱みにたゆらう人々の心に、はた又希望にあくがるゝ衆人の胸に親しき使徒として、人間の自由なる精神の發現として考へらるべきものであらう。

世界に於ける新思想の高揚はやがて舊き思想の排除であらねばならない。新しき思想は人類の永く夢みた自由の天地を獲得する。人間の世界歷史を主宰の觀念と、つゝましき默從とによつて色づけて來た舊思想の殼は破られる。

古き思想……それは偶像である。死滅しつゝゆくものである。もはやのびゆく思想や感情に何等の滿足をも與へ得るものでない。近代科學の偉大なる啓示は思想發展の第一要素である。特に吾人が稱してヒューマンと云ふ、人類の本性にとつて舊思想は何の價値もない、舊思想に於ては人間の心は活動の力であることを認めてゐないのである。しかるに舊思想は現今の商工業、立法司法にたづさはる大多數の人々の間に、又特にすべての種別階級の幇間者流の間に頑強にはびこりついて、未だ離れようとする氣はいもないのだ。

此思想は社會の種々なる階級層の頂部より底部へ、又底部より頂部へとあまねく行渡つてしまつてゐる。又此思想は舊時代の固着的觀念であつて奴隸人、無智、壓制等の上に築かれた沙上の建物にも等しき不安定なものであつたのにもかゝわらず、嘗ては見かけ上有利な外貌と自己保存の意識と結びついて所謂舊思想の基調となつてゐた。

しかるに近代に於ては理論上からの身體的奴隸制度は廢棄せしめられたのであるが固執されたる舊思想は、精神的奴隸制へと形を變へたに過ぎない。人々は身體的に自由である樣に見えても、す

べての社會層を通ずる階級によつて新な奴隷制が實行されて居るのだ。

此新しき精神的奴隷の狀態は、常に妙な物憂がしき恐れ、杞憂、疑惑等の中に見ることが出來るであらう。此狀態が全社會を通じ、個人として舊思想、迷信、禁制等に對して順應しつゝゆく樣にと強い、所謂流行語の夢想家とか、空想家とか云はれる樣になることを避けしめる。故に新しき經濟的奴隷制の結果として、人々は自己の職業的位置を失ふことを恐れるが爲に、甚だしきは世を憂す如く解釋され相な事は一言も敢て云はうとしない程、恐怖の暗の中に生きつゝある。彼等の心は思想上の大なる世界的運動の意義に就ては、宛然眠りに陷つてゐると同樣である。

併し乍ら一面に自由の觀念は又遙に遠き過去に根元を有し、寧ろ、奴隷の觀念よりも時代的に古きものであると云へよう。如何となれば、それは有機體の先天性であり、自由に成長し、自由にのび上らうとする傾向を有するものなのだから。此自由にあくがるゝ本能的欲望は、無數の禁制と壓迫とに結果されたる悧巧な憂慮によつて檢され劃一されて來た爲に、奴隷と自由との觀念の見さかいを曖昧にしてしまつた。しかし自由の精神は又も新しき渴望を以て、人心に徹底的に擴がりつゝある、又も新な力を以て社會階級を通じてのび上らうとしつゝある。

而して嘗て成長した知識と、嘗て發達した眞の本性及創造者としてでなく創造物としての眞の人間の位置とへの理解を以つて、決定的に且つ組織的に、又精力的に進みゆく。

その意味に於て市俄古の『トリユーンビルデイング』の懸賞設計——Finlander-Eliel Saarinen によつて提出されたるデザインに表明されたアメリカ人の精神の偉大なる描出に就て、私が最近に於て述べた理由を知つて載きたい。(アーキテクチユラルレコード四月號に同氏の文及設計案の寫眞が出てゐる。)又此意味に於て、私は新に、日本の東京帝國ホテルに就て述べんとするものである。

此偉大なる仕事はフランク、ロイド、ライト氏の傑作である。偉大なる自由の心から燃え上つた

理想の焔はついに廣大なる世界に於ける無二の業を完成せしめた。氏は先の訪問を通して古き日本の理想を形態的に表明されたものから識別し、彼自からの豊かな資質をして更に富ましめた。而して日本の住民は曉鐘に目覺めざる眠に陷てゐた有樣であつた。此仕事は吾人が天才と呼ぶべき才能の發露である。その幻想の豊かさ、此感受性、此心理の表現、それは特に自由の精神を象徴し、井蛙觀的見地や、生活の恐威からのがれしめる。又思想や感情を明白に表示すべき力である。

扨その建物は日本に於ては他に比すべき形を見出し得ないのみならず、他國に於てもさうであらう。しかもそは自身個性的な形態に於て、そのマッスと各部分、プランの改革、設備の進歩的の點等特徴を示してゐる。又管理上に於ても都合よき樣、不斷の注意を加へて設計され、一面に於ては觀者を喜ばしめ、慰めんとする意企から出た叙事詩的な印象的な表現をし、日本の住民の心に親しく話しかける樣な感さえも與へてゐる。

それは日本語で『しぶい』と稱する性質によつて特徴づけられてゐる。立體的の觀念を盛り上げたコンクコートな表現を研究してあるので、その壯大な感じはいつも人の心に迫るに違ひない。

此建物は建坪が300尺×500尺、面積十五萬平方尺である。即ち市俄古の大なるオーヂトリウムビルヂングの約二倍半に達する。主要部に於ては三階建であるが、七階建にも相當する特殊な一群を形成してゐる。意味に於て建物の大集團である。云はば團體的集合である　彼等に圍まれた美しき庭園を裝ひとした建築の集りに見える。そうして尙全體の上に、目的の單純化された主要の力の意味が覆はれてゐる。――それは熟練した手法を雄辯に語り、知らず〳〵人々をひきつける。尙考察を加へる爲に少面圖をたどつて進むならば、此建物は取扱に於て一つの群になつてゐない位にクローズされてないが、しかし一の塊として何所までも意味づけられてゐる。任意適宜に小部分の形に區分し、尙意味に於て一つの主流が各部を一貫して流れてゐる。各部は巧妙なる色々の形態の内に表現を求めつゝ、又すべてが一つの統一された心

の表現に負ふものである。

而して觀者の心にしみ透る程の強さの眞實を以て迫る。見る者はついに熟視の賜を感得するに違ひない。それは美の發現である、材料による構造であることを第一に感ずる、從つて內に於て生活する上によく適合したものであること、又一面に世界の建築界に驚くべき貢獻をしたこと、尙又近代人の强烈なる思想の現れであることを次々と感せしめられるに違ひない。

又之まではぐくまれて來た外形上の魅惑的のものを多大に持つてゐる。それは論理的の素地の上に、又巧利上からも發達した形として是認さるべき程のものであることを能辯に語つてゐる。而して分解し、又綜合的に、各方面から觀察するならば、觀者は此作品に生命を附與する源はプランであることを認めなければなるまい。

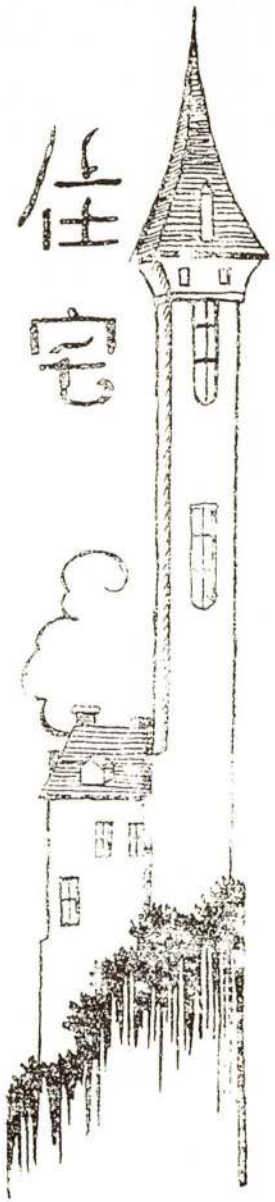
而してそれは巧利的の目的について有機的に活用出來、且つその性質上非常に多樣であるのを巧に使用され得る樣になつてゐる。

扱、各階のプランに就てしらべるならば、二大別されたサービスの方法を知るであらう。第一は各細部に渉つて、完全なホテルとして各複雜なグループを一に構成し、旅客又は住居者の慰安、もてなしに考慮し、第二は更に社交的な公共的の部分であるが、他國の代表者に接觸する日本の事務的生活にとつて當然社交部の必要からのみならず首府の高級な生活に避け難い大きな社交上の機關として認められるものである。此等二つの部分の關係上、人組みの具合、連絡關係が循還的に最も巧に出來てゐる。總ては人間が基本であり、活動の力であると云ふ根底から、心理を會得して創作されたものであることを示してゐる。

全建築を通じて、配置が巧で全體が人體の組織の樣に構成され、如何なる部分に於ても遠い部分も近い部分も同樣に親しげな關係にあつて行渉ろた連絡のない氣持を感ずる。こんな特別の氣持に於て、世界に又とないよきホテルであらう。

日本は此偉れた建築家を選んで好都合であつた此作物を味ふことが長ければ長いだけ、貴いプレゼントを受けたことを確信するであらう。それは卓越したサービスを果した上に、尙も日本の人々に自由意思の提供として、又來る可き時代の子孫に長く模範として、心の寶として多くの國民に日本國民が誇となし得るゝ最も美しい大な賜物、それは彼の尊き心の結晶であることも切に感ずるであらう。

（未完）



『家庭』たるべき住宅に關聯して

田中清志

住宅即ち『家庭(ホーム)』

それは人間創造の搖籃

原始時代に於て住宅は、單に雨露を凌げば事足りた、少しく進歩しての住宅は人間の棲み家として、天變人異に堪え、生命と財産を安全に保護すべき、建築物の一種類として取扱はれた　更に進んで今日に至り、住宅は住む人の思想、健康、品性、趣味、活動、幸福等人生上の總ゆる問題を掌握すると言ふ見地から『家庭(ホーム)』と考へられるやうになつた。

住宅即ち『家庭(ホーム)』である。吾々はこゝに生を享け、こゝに育ち、こゝに人となり、生涯を通じ此支配より脫することは出來得ない。

かう考へると借家住ひは恰も他人の家庭に寄食生活するにも似て、何處に人生の愉樂、生存の意義が味はれやう、況してや近頃八ケましい文化生

活の要求等、どうして達成され得やう、人間の誰しもが『自分の家』を持ちたいと言ふ欲望を持つことは、これ全く本能であるべき筈である。

住宅を單なる建築物として取扱ふことの妥當でないことは、それを自分の家として考へる場合、最も適確に感受出來る、從て其意匠設計を技術上の一茶飯事として全部を擧げ、所謂專門家に委せられないことゝなる。何と言ても住まふ人の人間性を創造する、人生中最大の事業であるから、大體の構圖は勿論、使用材料、室內裝飾——造作、家具、壁の色合等の細部に亘つてまで、住む人の思想と趣味に融合し、其個性を表現する一つの創作として完成せねばならぬ。

されば眞の住宅建築家は、技術上の造詣と手腕と、確固たる信念と主張と、相當の經驗を有する以外に、人——建築主——の心理と思想と趣味を理解し、希望と要求を消化し、心から其人、其氣分となつて、之にぴつたりと合致するものを具體的に現出せしめる處の、演劇家的素質を持たねばならぬ譯である。

住宅を只の建築物として取扱ふ建築家も、或は其外觀に於て立派な形態を供へ得やう、又構造強弱的計算に依つて、材料の經濟的使用、構造の合理的組成を爲すであらう。又學究的理論から僅少の建坪を以て要求の間取を得、建築費の低廉を期し得るであらふ。然しそれが果して人間を創造し人生を享樂し得る『家庭』となるかは甚だ以て疑なきを得ぬ、感情の微妙な働きは、論理、勘定に支配されるものでなく、又支配される時、最早それは本來の人間性から餘程、緣遠いものとなるのである。

こゝに『家庭』としての住宅設計は、因襲に捉はれ、樣式に拘泥し、形而上の問題のみを事務的に處理しつゝある一般建築家の領域から速かに脫還し、『住宅建築家』の出現を期さねばならぬのではあるまいか。

住宅革命期

生活樣式改善の階梯

近代の文明が生んだ新らしい、そして幸福な生

活樣式の一つに、所謂郊外生活がある。惶だしい都市で、半日を煩務に費す人々も、其住居は閑靜な郊外に構へて、都市の利便と、田園の簡素とを併せ得ることのそれである。これは亦都市内に於ても、今高唱されつゝある都市計畫の地域制の活現により、住居地域の形式に於て、かくなるべき運命にある。

都市に於ける將來の住宅が、皆かうして郊外に移り若くは郊外化するのは當然の趨勢で、現在の郊外住宅は即ち其第一歩と見做される。此正しき進路を、喜ぶべき現象とするにつけて、茲に最も不滿に感ぜられるのは、郊外住宅を開拓して居る先覺者達が、何故其家屋にまで、考へ及んで居ぬかの一事である。

刻下の住宅問題は、彼の不眞面目なる量の充實からや、遠退いて、健實なる質の改善に向つて居る。而して其生活樣式を椅子式とし家族本位とし且つ實用主義とすることには、誰しも意見の一致せる所である。それは我國が追々と文化的向上をするにつれて、吾々の生活樣式乃至は風俗習慣が根本に於て日本味を沒却せぬ程度で——世界共通にまで進まねばならぬことは明白で、現在官署、學校、病院等が既に然くなつて居る今日、住宅のみが何時迄も日本式を固守して洋式を排斥するならば、吾々が二重生活から脫し得ぬ許りでなく、偏狹な生活樣式の影響は思想や感情に於て、文明諸國と相容れないやうなことにならないものでもなし、これを又對内的に考へても、一家の中で主人と主婦と子供と、夫々年齡も違へば性質も違ひ仕事も亦違つて居るのであるから、嚴密に各々の個性を尊重する現代的道德の精神から言つて、家族が各々一個の獨立した部屋を占有し、劃然たる區別を立てゝ、秩序正しく其獨立を保たしめると言ふ上からも、現在の生活樣式及家屋構成法は早晩改革されて、純洋式とならねばならぬ運命にある。又住宅そのものゝ本質的使命から見て、彼の封建時代の發達以來何等の進歩を見せぬ。家庭生活を無視した、外觀過重、接客本位の居住樣式が何時迄で存置されべき價値あらふ。

今住宅はその革命期に當面し、社會も亦之に肯

定し、是認し、希望して居るのである。

然し現在の生活樣式から老幼男女が、直ちに洋式の生活に移ることは容易の業でない——少くとも圓滑には運ばれない。さすれば茲に何等かの緩和方法が考究されねばならぬ。而してそれは建築家當然の責務であるべき筈である。然るに識者達の視線は一に結論にのみ集中して、其途を指呼すべく甚だ無關心であるかに見受けられる。所謂和洋折衷なるものは隨所に散見されるが、彼の和洋兩樣の家屋を無理に接續せしめたものを以て滿足すべく吾々の要求は幼稚を脫して居るのである。之を『住宅建築家』の出現を期し、其手腕に俟たねばならぬ事項の一としたい。

住宅建築家

住宅問題解決の第一步

借家が『家庭』たるべき住宅として價値のないものであることは、世に等しく認められて居りながら、長い傳統を持つて今日これが中流以下に根强い勢力を占めて居る事には、そこに何等かの理由がなければならぬ。其最も有力な一つは、用務の場所と社會的地位の變遷、家族の增減等生活上の變化に應じて、自由に格好な家が隨所に撰擇出來る點であらふ。自分の家であつて見ると、初め手頃であつたものも家族が增せば狹くもならふ、交際が廣くなり來客が多くなれば體裁も考へねばならぬ。遠隔の地に轉任の事情でも起れば（賣つたつて滿更ら損にはならぬとも言ふが）借家程手輕には引越せまい——亞米利加邊りでは『携帶住宅』が考案されたやうであるが目的が違ふ、然も失敗であるかに聞き　ぶ——

現在實社會に活動して居る人達で『自分の家』を要望し又それを得るべく、財政上の餘裕あるにも拘らず、尙且つ不經濟にして不愉快なる借家生活を餘儀なくされて居るものある所以のものは、かうした事情が原因して居るものとも考察される（それが又住宅問題に於ける量の不足を釀成することゝなり、益々『住宅問題の解決難』を呼ばしめるに至るのである）

若しも『自分の家』に此借家なるが故の特點が

幾らかでも加味折衷出來るなら、如何に都合よきことであらふ。私は此研究を遂行し、其指針を爲すことは『住宅建築家（ホームデザイナー）』の手腕に俟たねばならぬ事項の二ことしたい。

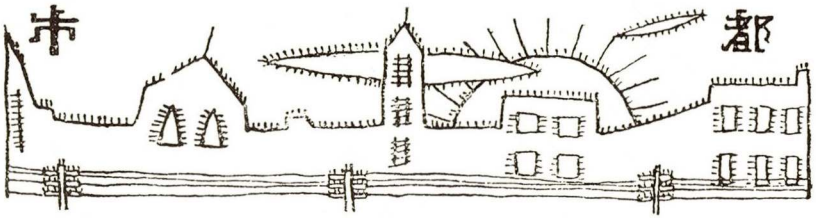
更に住宅に於ける庭園が『家庭』としての一大部分であることは、今日異論のない所であるに尙閑却され勝ちなのは、一般建築家に其素養が乏しいのに起因しはすまいか。又便所の改良が八ケましく唱へられる割合に普及されないのも、それが『衛生技術家（サンニタリーエンヂニヤー）』の領域なるが故であるまいか、又家庭の電化が絶叫されつゝ一般的たり得ないのも等しき理由が潜むのではあるまいか。

茲に於て私は『家庭』たるべき住宅建築百般の事項を考究し現實化する所の　住宅建築家（ホームデザイナー）』は、之を一般建築家より獨立せしめることは、住宅問題解決の先決問題ではあるまいか偶感を識して批判を俟つ。

（七月十八日）

夕

彼方にけむれる森のあたり
乳房によりそふ稚兒の如く
靜かに眠れる空の色も
淺紫にしみゆく此夕暮
願ふは艷なる君と二人
野末の逍遥心足りて
情にもゆる胸の中に
秘めたる小琴や彈ひてみんか



五大都市に於ける建築界の狀勢

一記者

此處に五大都市とは、東京・横濱、名古屋、京都、神戸の各市を謂ふのである而して『建築界の狀勢』と題するも、主もに、各種建物の新築、改築、增築等の狀勢に觀たものを紹介せむとするのであつて、大正十一年中のそれに據つたのである。但し大阪市に於けるそれは、曾つて本誌で紹介したから、今回は除外することゝした。

先づ、手近かの神戸市より紹介しよう　同市に於ける新、增、改築の棟數は合計四千百五十五棟にして、之を用途別にすれば、住宅建築がその四八・五%を占め、商業用建築物は住宅と殆むど同率にして四二・六%、その餘の五・五%は、工業用と其他である。住宅と商業用建物の比較的多い點よりも、その反對に、工業的建物の極めて僅少なるは、土地柄として當然な現象であらう。之を構造別にすれば、總棟數中三千八百六十二棟、即ち九十三%弱は木造、木骨造、土造にして、鐵筋、鐵骨混凝土等の如き耐火耐震的構造の僅に七%を占むるに過ぎざるは、我主要都市の建築物として寔に貧弱なりと謂はざるを得ない。

次に、之を坪數關係に觀む歟、建築總棟數四千百五十五棟に對し、建坪十三萬七千五百六十九坪七九にして、延坪十九萬九千六百五坪三一である。之を一棟當

平均にすると、建坪三十三坪餘、延べ四十八坪七四となるから、大體に於て相當の面積を有つてゐるものと謂つて可い。

以上を單位として、他の四大都市即ち京都、名古屋、横濱、東京の各市に於ける建築の狀勢を比較してみると、

京　都　は建築總棟數六千百二十九棟
名古屋　は四千七百二十二棟
横　濱　は五千八十八棟
東　京　は一萬九百三十四棟

是れに

神　戸　を加へると、四千百五十五棟

斯くして見れば、名古屋と神戸は略ぼ大差なく京都と横濱も似寄つた數を示してゐるが、東京に到つては、流石に京都と名古屋を合したる數に尙ほ多少の凌駕を有つてゐる。勿論、人口と面積と産業的關係が斯の狀勢を支配してゐるであらうから、斯る現象は必ずしも驚異とするに足るまいが斯う並べてみれば、その裡より種々な思慮を摑み得るであらう

次に、それ等の建坪を並列してみれば、

京　都	建坪	十二萬三千四百八十九坪
	延坪	十七萬三千五百五坪
名古屋	建坪	四十萬八千六百七十七坪
	延坪	四十七萬四千九百七十二坪
横　濱	建坪	十萬八千七百八十八坪
	延坪	十二萬三千六百九十八坪
東　京	建坪	二十一萬七千三百六十三坪
	延坪	三十四萬八千五百四十二坪
神　戸	建坪	十三萬七千五百六十九坪
	延坪	十九萬九千六百五十三坪

斯ういふ實數になるが、棟數に於て最も下位に在る名古屋が、坪數に於ては最多を示し、却つて東京が第二位と成り、京都と神戸は伯仲の間に在りて、棟數の東京と京都に次げる横濱は、最も坪數の少きを示してゐる。

更らに、之れを用途別に觀れば、

京　都	住　宅	三、四九九二	六九、七八九坪	延	二八、四五
	商業用	一、一三〇	二六、八七一	九九、五五八坪	四一、九〇二
	工業用	九五三	一九、五六二		二三、四三九
	其他	五六六	七、二六五		八、六〇五
					三七、九七

名古屋	住宅	二、五九一棟	八九、〇三〇坪	延 八、四〇〇坪
	商業用	一、二〇二	六九、五六六	九三、一七六
	工業用	五二五	一七二、五四二	一九一、七〇六
	其他	四〇四	八七、五三九	九一、八八四
				二〇、七九
横濱	住宅	四、四四棟	八〇、二〇四坪	延 九二、二三二坪
	商業用	二五三	一〇、一五二	一六、二三六
	工業用	三六一	二三、二三九	一四、四五九
	其他	四〇	六九六	七八一
				二七、二八
東京	住宅	五、七七七棟	九九、五二五坪	延 一五七、六四四坪
	商業用	三、八五八	七六、五六二	三七、〇八一
	工業用	一、〇二八	三六、九二六	四七、一二六
	其他	一六一	四、三三〇	五、六九一
				三七、二八
神戸	住宅	一、九九〇	五七、三六五坪	延 七四、一九〇坪
	商業用	一、九〇九	六三、六六五	一〇六、四二一
	工業用	二三六	一五、二〇八	一六、九七八
	其他	二〇	一、三九	二、〇一四

以上の實數に於て示す幾多の事實中、先づ吾人の注意を惹くものは、孰も住宅建築がその最多數を占めてゐること、我最も主要な貿易港たる横濱市に於ては、商業用建物の頗る僅少なるに反し京都と名古屋が相伯仲して、商業用建物の相當なる數を占めてゐるの現象である。若しそれ、神戸市に到つては、工業用建物の僅少なると共に、商業用建物が住宅と殆ど同數位を有してある事である。それに相並んで、名古屋と京都が、工業用建物の相當に多數を占めてゐる事は、前記同市の商業用建物と相俟つて、同市が今や經濟的發展の新機運に在るを想察するに難くない。

今一つ面白い現像は、住宅の平均一戸當延坪數と一種の地方色とでもいふべきものゝ關係である五大都市中、一戸當延坪數の最も多きは名古屋と神戸にして、孰も三十七坪といふ平均數を示してゐる。然るに、東京の二十七坪といふに到つては京都の二十八坪に次いで頗る下位に在るのは面白い事實である。五大都市中横濱の二十坪といふに到つては、最低位を示してゐる。蓋し、それ等延坪數の多き所以は、二階以上の建築が多いのと共に、遠に地積を得る事の比較的容易なるために、建坪を相當廣く取つた關係に因ること、想はれる

更らに、構造別による建築梯數を%で示せば、約左の通りになる。

	木造	石造 煉瓦造	鐵骨、鐵筋混凝土造
京都	九六%	一・七%	二・三%
名古屋	九九	〇・八	〇・二
横濱	九八・五	〇・八	〇・七
東京	九八・五	〇三	一・二
神戸	九九五	〇・一	〇・四

件の比率によつて觀れば、五大都市の大正十一年に於ける建築の殆んど凡ては、依然として木造建築である。その反面に、上記の成績が示すように、耐火的構造と稱へらるゝものは、寔に寥々たるの觀あるは、我住宅問題の前途尚ほ遼遠なりと謂ふべきである。之を今日の實際に觀ても、鐵筋又は鐵骨若くは煉瓦造の如きは、所謂大建物に於てこそ之を採るの當然な成り行きであるが、數に於て住宅問題中の優位を占めてゐる建築物は、殆んど、例外なく木造である。蓋し、建築費其他の關係に由職する處であらうが、吾人は、斯の大勢より稽へて、我住宅問題の幾等かの解決を助長すべく、然るべき法令の干渉を望ましたるを得ない

吾人は、尚ほ叙すべき多くのものを有つてゐるが、之を仔細に話すことは、到底、時間と紙幅の容さゞる處なるが故に、左に、五大都市に於ける建築の狀勢を一括して揭げ、以上說明の外に尚ほ讀者が、それより何ものかを獲る資料としたいがそれとても、却々の紙幅を要するが故、代表的にその內比較的簡單なる東京市と、京都市のを揭くることゝしよう。

大正十一年新改築增築表

(一) 東京市

	棟數	建坪數	延坪數
新築	三、六四七	九三、五四四	一五〇、四三
增築	四、三五六	六八、二八四	一〇四、六一〇
改築	二、九三一	五五、五三五	九三、四九

構造用途途別に依る同上建坪數、棟數、延坪數

A 住宅向建築物

	新築		
木造	二、一八一	四六、三一七	七三、一五七

石造	—	—	—	—	—
鐵造	—	七	四八六	一、四〇五	一、五一四
計	—	七	四八六	一、四〇五	一、五一四
増築					
木造	二、一四〇	二七、〇九一	四〇、二〇八	二三、五八七	三九、七三四
石造	二	二八	三七	五六	一四九
鐵造	一	一〇	一〇	八九四	二、〇二〇
計	二、一四三	二七、一〇九	四〇、二五五	二三、五三七	四〇、九〇三
改築					
木造	一、四四五	二五、五九九	四二、八一三	一、二四八	三九、二四六
石造	一	一四	一四	二三〇	八六七
鐵造	—	—	—	—	二三
計	一、四四六	二五、六一三	四二、八二七	一、二五八	四〇、八三五

B 商業的建築物

新築					
木造	一、〇三五	二七、〇〇三	四九、二八一	一、二五一四	三二、五六五
石造	一	四五	四五	二八六	一、三
鐵造	三四	三、五〇五	一〇、〇一七	一〇、三三三	一六一
計	一、〇七〇	三〇、五五三	五五、三四三	一二、五六五	二七五
増築					
木造				三、五一五	四、八三七
石造				二九	一七、六七七
鐵造				一三、九九九	
計					

C 工業的建築物

新築					
木造				五八〇	一四、六七四
石造				七	一五七
鐵造				二	一、三〇六
計				六〇八	一六、一三七

	改築				改築		
木造	一八	五、一五九	六、八六二	木造	二六	六六〇	九五七
石造	四	二九	四八	石造	—	—	—
鐵造	九	一、六〇二	一、九三〇	鐵造	—	—	—
計	二〇一	六、七九〇	八、八四〇	計	二六	六六〇	九五七

D 其他の建築物

	新築				總計	一〇、八三七	二七、三四五	三四、五三
木造	五五	二、〇六三	二、六五					
石造	二	一一〇	一八八					
鐵造	三	一六	二八					
計	六〇	二、一八九	二、八九一					
	増築							
木造	七〇	一、三四二	一、六六八					
石造	一	三	二四					
鐵造	四	一三七	一五一					
計	七五	一、四八一	一、八四三					

本表は大正十一年中東京市間に於ける市街地建築法に依り申請又は届出に係るもの丶内工事竣功せるものに就て統計せり

木造は木骨石造、木骨煉瓦・土藤造り石造には煉瓦造、コンクリート造、鐵造には鐵骨石造、鐵骨煉石造、鐵骨遇筋、コンクリート造を含む

其他の建築物とは社寺教會等の類を謂ふ

隣接町村(二十七ヶ町村)は八月一日より法施行せられたるも統計上少數に付省略せり

建築物増加略統計表

(二) 京都市

	平家建	二階建	三階建	四階建以上	計
住宅的建築物 住宅ノ外、寄宿舎、合宿所、下宿屋等定住的意味ヲ有スル住宅ノ用ニ供スルモノ及ビ住宅ノ一部ヲ商店等他ノ目的ニ使用スルモノ	建坪 二〇、二八七 棟數 一、二五六 延坪 二〇、二八七	四九、一七五 二、二三三 七八、五五一	三二六 一二 七二〇		六九、七八九 三、四九九 九九、五五八
商業的建築物 銀行、會社、事務所、商店、旅館、待合、料理店、貸座敷、劇場、官公衙、停車場、學校、圖書館、病院、公會堂ノ類	九、一五九 五、一四 九、一五九	一五、九八六 五九〇 二七、三三四	一、一六三 二三 二、八六七	五六二 四 二、五四〇	二六、八七三 一、一三〇 四一、九〇二
工業的建築物 工場、倉庫、車庫ノ類	一四、一三九 七一三 一四、一三九	五、二六八 二三四 八、八四	一五三 七 四四五		一九、五六二 九五三 二三、四三九
其他 社寺、教會ノ類及ビ各號ニ含マザルモノ	五、三四五 四五四 五、三四五	一、九一五 一二一 三、二四四	五 一 一五	四 四 一	七、二六五 五六六 八、六〇五
合計	四八、九三一 二、九三六 四八、九三一	七二、三四五 三、一六七 二七、九八五	一、六四九 四二 四、〇四八	五六二 四 二、五四〇	一二三、四八九 六、一四八 一七三、五〇五

大正十年中

九七、六〇八
六、一二九
一三〇、三八四

進め過群より花園へ

（畢）

都市計畫技師　大屋靈城

（三）結論

都市に於ける住宅を將來如何に解決するかと云ふ問題が今日識者の間に注目されつゝある際に當つて過群を去つて花園へ進めと云ふ私の議論はそこに何かの反響を持ち來すであらう。これに共鳴する人と、これに反對する人と、勿論出來るに相違ない。共鳴される人々の爲にも、反對する人々の爲にも、私は私の主旨を今少しく徹底せしめて置きたいと思ふ

過群生活があらゆる點から見て弊害の多い生活方法であると云ふ事は、今日色々の方面に證明されつゝある。その最も徹しいものはアメリカの都市に於て見られる。一體アメリカ人は惡い事を表面に出す事を非常にきらふ國民で、內面では鯨飮を敢てしながら表面は立派に禁酒を守つて居るように見せかけて居る者も隨分澤山あると云ふ如き又ニューヨークの盛り場、タイムスクエアを步いても、ロンドンのピカデリを散步して居る時のように、先方から聲をかける婦人等は殆んど見當らないが、其の實內面には隨分ひどい事が多く最近主として斯の如き界隈より顯はれる殺人犯の如き日に增加の傾向を示し、これ等の爲に驚さるゝ人口數は出產と死亡との差により生ずる人口增加數より多い位だと云ふ、以て如何に都市の人心が狂亂せるかを察するに足るだらう。人口の都市集注を防がず却つて奬勵した合衆國の都市が既に今日犯罪の都市として擧げ得らるゝと云ふのは、全く過群生活が產んだ結果である。アパートメント

の如き不自然の住宅に住する結果である。自然を遠ざかつた所謂都市のギラ〳〵の中に生活することが幾萬の人をして毎日氣狂ひになしつゝあるを觀て戰慄せぬものがあらう。斯の如き町は都市計畫上から見ても、外形的には模範的都市であるかの如く思はれるものが澤山あるが、內面的には一文の價値なきものが多い。即ち如斯き都市計畫は形態上には改良の實を擧げたとするも、市民の內的方面の改善には少しも觸れてない、否、却て市民を改惡したと云つていゝ位である。

歐洲に於ても、巴里、伯林の如き大都市は從來その都市が採つて來た集中的都市計畫の爲に非常なる苦痛に陷り、今や飜然として其の苦しみから遁れんことに汲々たる有樣である。獨逸の諸都市を巡遊したらんヘの等しく目につくのは郊外に散在せる無類の小舍が果樹園、蔬菜園の中に圍まれた所謂ガルテンコロニーエンである。勞働者は眞先に窮屈な間借の生活から遁れてこのコロニーをつくつた。勿論立派なものではない、ホンの掛小屋に寢臺が据えられて居る位のテント村式のものである。然し彼等は貪慾を飽くを知らぬ地主や家主の壓迫から遁れて、自由な天下晴れての小名住まいに移つて日々樂園の中に暮して居る事を心から喜んで居る。

エレベータの戸の開く騷音の代りに、花の蕾の開く樂音を聞き滲じむ如き油汗の香ひを嗅ぐ代りに甦み還るような土の馨りをかき乍ら自然に親しんで居る。

花園生活の樂しみは、その土に親しむにある譬へ一束の野菜でも自分で培つたものは甘い、又新鮮であるが爲に滋養の價値も大である。如何に薄弱な身體の持ち主でも、田園に入つて土に親しむ時は年ならずして丈夫な體格を作り上げる事が出來る。自然！嗚呼!!何と自然は正直であらう。僞りのない生活、限りなき眞の人生の樂しみは悉くこの田園にある。或人は言ふ。自然を友とし畑を耕し乍ら生活せんが爲に、郊外に行く其の結果や如何、片時も居たまらずして再び市內に戻るも、郊外は醫者に不便だ、一度病魔に襲はれんか必ず死なねばならぬと、又言ふ交通運輸の便に乏しい

娯樂が少ない、水が悪い、食料品が氣に喰はぬ、爲に永住は至難であると、都市の住宅はアパートメントを以て理想なり。郊外住宅の如きは單に其の階梯のみと、何と彼等の目の短眼なる事よ。

彼等は現在の不完全なる郊外住宅を以て郊外住宅の本質なるが如く考へ、現在の不備の住宅地を以て眞の郊外住宅地たるが如くはき違へて居る。僞物を見て本物と考へて居る。我國の都市に於ける郊外住宅地と雖も、今後十年の後に於ては交通の便も上下水道の便も必ず拓けるに違ゐない。病院の如き、名醫の如き、必ず散在するを見るに到るに違いない。既に歐米に於ける郊外住宅地にして如斯き施設を有せぬものは殆んどない。我々は今過渡期にある。時は萬事を解決するであらう。先日或るところで、此後十年後に於て大阪の住宅が全部アパートメントとなるなどと公言した人があつたが、我々はそんな言葉を信じ得ない。

今でさへ過群に苦しんで居る大阪市が何ぞ苦しんで將來集中主義の都市計畫を採ろうぞ、既に地域制の如きも定められ、市内の人口は年々減少して郊外へ郊外へと增加し、舊全市を擧げて商業地域に成らんとするの形勢にある。

私はアパートメントを全々排斥するものではない。それにも幾多の特徴を持つて居る。その中に生活することは誠に便利である。又周圍に相當の空地をとつて排置すれば住み心持もよいことを知つて居る。然しこれを以て都市の理想的住宅の形式とは考へない。又將來の市民が最も優秀なる自己の住宅として滿足してこれに住むと云ふ如きものとも思はない。若し都市の住宅が幾分でもアパートメント式に改まる時があつたならば、それは專制的資本主義が世の中を征服して、强迫的に貧民をその中に追ひ込んで、牢獄内の生活を市民に强いた時である。

强慾非道の家主が、一定面積の土地から最大の家賃を搾り出さうと考へた結果が、一家を空中に突出せしめたらと云ふ計畫を起してほゝ笑む時である。其の時である。我々市民がアパートメントの中に不自然の間借りの生活を强ひられるの止むなきに至るのに、賢明なる江湖の諸彦よ。道は二つ

ある。

何れをとるかは銘々の自由意志に委せる。歐洲の人々は既に十八世紀の頃から、この賃貸長屋の生活に苦しめられたではないか、我國民前者の覆るを觀て自ら戒めなければならぬ。田園住宅の慫慂等は頑迷固陋なる園藝家の囈語であるとか、閑人の夢であるとか、嘲弄する人もあらう。總ては僞はなき自然に委せる。自然は正しき判決を與へるに違ゐない。

茲に私は私の理想を述べて置く。都市の田園化田園の都市化、これ私の理想である　私は今慕地にこの理想を出現すべく走つて居る。我國の都市は餘りに乾燥無味である。機械的に出來過ぎてしまつて居る。甍の波、煙の雲、煤の雨、爆音の響何ぞ火宅と選ぶところあらう。そこに何等の清涼劑なく、何等の緩和劑もない。水々しい新綠の一葉、さゝやかな小川の流れ、熔けるようなエメラードグーンの芝原と云ふが如き人心を軟らぐべき何物をもない。只人は利慾をのみ血眼になつて追つて居る。人生の尊き意義を忘れて居る。寺を追ひ出して倉庫を造り、川を埋めて電車を引き、嘗て寸地をも殘すと云ふことを爲さない。市民の耳を樂しましむべき音樂　眼を樂しましむべき花園精神の慰安を與ふべき宗教、疲れを恢復すべき木蔭、かくの如き尊き施設について嘗て老へたことがない。

都市は單なる取引の場所ではない。矢張人の住する地である。綠樹もあり、草原もあり、潺々たる水流もあつてこそ。そこに樂しき生活も出來、眞の活動も出來る。私は嘗て大阪市内の樹木を調査せしめたことがある。その結果によると　市内に於て樹の爲に蔽はれた土地は、僅かに百分の三にしか過ぎなかつた。我々どうして如斯き埃の中に世をおくることが出來よう　都市を今少しく田舍らしき餘裕ある構造にしなければ到底、都市は永久に人の住み家とはならない。今日の都市に於ては住宅を郊外に求めて、市内は單に取引の場所として殘すより他に道はあるまい。

或人は言ふ、郊外は地價日々に暴騰して住むに耐へぬと尤もの言である。然しこれは郊外に發展

し得ざる絶對の理由とはならない。地價の引下げは政策の如何によつては必ずしも至難のことゝは思はない。思惑によつて暴利を得んとする土地のスペキユレーションを防止する方法を講ずるとか土地增價稅間地稅等の如き課稅法をとるとか、色々の手段を以て、或程度までの地價の騰貴は防ぎ得るものと考へる。只悲しいかなこの問題に熱心なる爲政者に乏しきのみである。

交通が開け土地の評價が正當のレベルを保ち得る曉には、郊外に相當の宅地を持つて家を構ゆることは必ずしも贅澤にはならぬ。我々は一日も早くその日の來らんことを祈ると共にかくなるべく努むるものである。

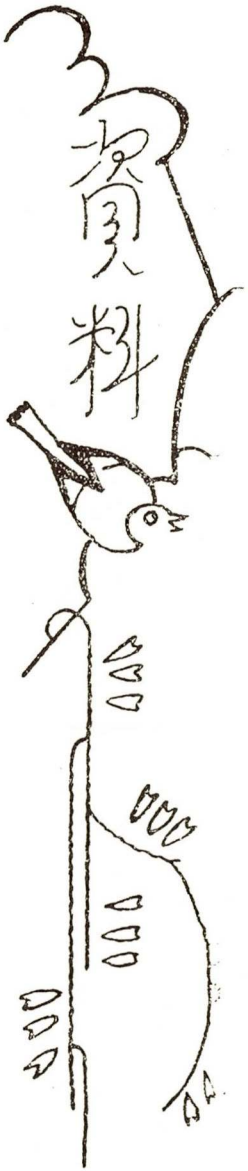
今日、田舍が到るところルーラルエキソダスの爲めに苦しんで居ると云ふ事も都市の問題と共に考慮を要する問題である。田舍の青年が都市に奔走すると云ふことは果して何によるか、私は思ふ田舍は不便である。娛樂に乏しい、衛生の施設を缺いで居る。仕事が少い。こんなことがルーラルエキソダスを惹起するものである。

都市計畫の聲をのみ聞くが、吾人は今日田舍の計畫には改良と云ふ聲を聞かない。都市のみを改良して田舍のみを顧みないことは其の結果に於て都市も田舍も惡くなつて行くと云ふことに成る。

私は思ふ。田園計畫、田舍の都市化運動、これは今日當然都市計畫、都市の改良と同時に起るべき問題であると、田舍にして都市化したならば、何ぞ苦しんで田舍を去つて都市に走るものがあらうか。都市を改良して田舍を放任することは益々都市と田舍とを一つとも窮地に陷る所以である。

都市の田園化、田園の都市化　これ私の爲さんとする理想である。都市と田舍とが其の性質に於て相接近して、そこに都市にてもなき田舍にてもなき一つのものが形成されるのである。私はこれを花園都市と呼びたい。日本の全國土をしてこの樂しい境地に、否世界の全域を擧げてこの樂境としたい。それも遠からぬ將來であらう。

進め過群の苦境より花園の樂土へ。　（終り）



最近の都市雜誌より

Z Y 生

都市計畫者の印象記

左の一文は英國に於ける有力なる都市計劃者になるレエモンド・アンウィンが、米國と歐洲諸都市との交通運輸問題を比較研究したものである。その概要を「米國都市雜誌」より紹介する。

十一、二年を得た今日再び米國を訪問し、その都市を見て歩く中に、最も著しく感じたことの一は、都市に於て歩きめぐることが、一層甚しく困難になつてゐるといふ事である。自動車も益々多く使用さるゝ結果として、自動車の速力も十分に出すことが出來ず、自動車による時間の儉約も十分でなくなつてゐる。小なる都市でも既に左樣であるが、その都市が大なれば大なる程、又之れが甚しくなつて來てゐる。米國都市計畫のつくり出した四つ辻に行く度び毎に自動車は止まらなければならず、その停止する度數がいよ〳〵頻繁にな

つてゐる。左樣して自動車で一寸した處を訪ねるに、恰かも歩いて行く程の時間をとるに至つてゐることは、今日の米國では普通になつてゐる。紐育市や市俄古市では（他の更に小なる都市でも同樣であるが）此狀態が殆ど絶望的狀態にいたつてゐるといつて、よい程に甚しくなつてゐる。この點を歐洲の諸都市に比較して見るに、米國の諸都市に此困難を齎らしたに就ては三つの原因があると思ふ。

（一）米國ではその人口に比較して、餘りに自働車の數が多い。思ふに歐洲のそれの五倍若しくは十倍になつてゐる。

（二）高層建築物が多いために、民衆の多くが出來る丈け市街に出でやうと欲する要求が盛んであつて、これが又歐洲のそれの五倍から十倍に迄なつてゐる。

（三）都市街路計畫の一般組織が、長方形の建物ブロック（Building Block）を採用し、又時に不規則な碁盤形計畫を用ふるために、四つ辻が無數になつて、遂に交通速力を最大限度に迄制限をしてゐる。

米國では、自動車所有者の數が十人に一人の割合となつてゐることを承知してゐるが、これは人口に比して車數の多いことを意味してゐる。左樣した今日の場合、凡ての都市民をして已の所有の自働車をもつて、市中を走らしめ得らるゝに十分な、街路を設くる事が果して可能であるか否かを眞面目に考ふ可き今日の時代であると思はれる。今日一千から一萬の人々が、一個の高層なる建物の中に働いてゐる米國の狀態であるが、これ等の人々に對し、普通の割合に車を配當して使用させると假に定めて見れば、その所有者が所用を十分に果し得るために、この車の速力を適當に使用し得る如き廣さの街路を走ることは困難であることは明である。確に紐育市の或部分の街路の廣さの如きは、日中の間その附近の建物に這入つてゐる勤め人や、働き人等の三分の一以上の人を一時に歩かせ得ない程度のものと計算をせられてゐる。隨つて若し此等の人々が、一時にこの建物の附近の街路を歩かうと欲するなれば、或る者等は他の

者等の頭の上を、又その他の者等は之れ等の者等の頭の上を歩くよりいたし方がないことになる。かうした密集した人口が所有の自動車に乗つて滿足し得る樣に動くことが不可能に見ゆるのみでなく、公衆一般の運輸の業に從事してゐる諸の機關が、之の能率を十分に發揮し得ることは不可能のことである。

碁盤形街路計畫の不便

米國の街路計畫は、街路による一般の運輸組織をして十分又自由に運動せしむる樣になつておらず、又その街路面積を經濟的に役立つ如く組織も出來てをらず、更に又運輸の重積に從つて街路面積を配分して居るのでもない。碁盤形街路組織は自然の道路でもなく、又最も重要な地點から、他の地點に赴き得る近道もない譯である。此組織では二の基本的方向に於ける或重要なる中心から導かれてゐる街路が、方外の遠方に迄延びる如き傾向がある。かうなると凡ての街路が、主なる運輸機關の走る處となるは免れ難い。何故なれば凡ての街路が一の地點から他の地點に赴くに適當なる道となるが故に、隨つて凡ての街路が最小限度の幅となり、かうして凡ての街路の面積と費用とに不必要な無駄をせねばならぬことになる。これに反してそこには明に定められた主街路がないのであるから、その二三を運輸のための大道として撰むことも容易でないのみでなく、それ等を適當なる幅に改築することも困難であり、又街路を横切る他の運送機關のために、屢々妨げらるるを避けることも困難である。

その如く、凡ての四つ辻にて他の皆車の通過するを待たねばならぬことを餘りに頻繁に餘儀なくなさるることが主なる原因となにて、米國の各都市の運輸方法を甚しく困難ならしめてゐるのであるが、之れに加ふるに、方外に高層なる建物の多きこと、又人口に比して自動車數の多きこと、これを一層困難ならしめてゐる。更に又この發展の組織が住宅區域に適用されてある、これは又著しい失費となる。特に一個の家族によつて占めらるゝ地域では左樣であつて、一軒の家につけて配

分されてゐる地先や、又構造され、維持されてある可き街路面積の額が、これを歐洲に於いて普通に右と同樣の發展をしてゐるものと比較して見る時に著しく高くなつてゐる。確に此高價な贅澤な街路配分組織を生み出したに就ては、一家族住ひの家々を設くる代りに、アパートメントの高い家々のブロックを設けた諸都市の有力なる人物等にその責任が大にある。

兎に角、米國市民の多くが方外に高層な建築に困難して、一家族住みの家屋を求めるに到つてゐるは明な傾向である。――確にかうした種類の家屋の面積が、都市の發展に伴ひ、より大きくなつてゐるは、自分が十二年前に米國を訪問して注意した時よりもより多くなつてゐる。若しも此非常に健全なる撰擇の傾向（一家族住みの家を求むる傾向）善く配分されてある可きであるならば、土地や不動産所有者　都市計畫者等は、その發展を如何にして經濟的ならしむ可きであるかといふ問題を注意深く研究す可きである。しかすれば一區域の街路を走り、又他の之れと同樣なる發展のために費やす失費が、英國に於て田園都市型の發展のために費してゐる額の二倍若しくは三倍に達してゐるを發見するに難くない。

都市計畫の進歩及都市計畫法

左の一篇はマサチューセッツのデパートメント・オブ・パブリック・ウエルフエアの家屋及びタウン計劃部の書記であるミリアム・アイ・ロッスが「米國都市」雜誌に寄せた一篇であるが未だ都市計劃に就ての心得なき人々に對し都市計劃の事業の概略を說明して要領を得てあるが故、左に紹介す。

合衆國に於ける最初の部分的の地帶律令は、一八九八年にボストンを通過したこれである。この律令はコプレエ・スクフエアの建物の高さを制限したものであるが、一九〇四年にはボストンをAとBとの二區域に分つ法律が通過した。A區域では建物の高さが百二十五呎に制限せられ、B區域では八十フイートに制限せられてゐる。この次の部分的地帶法令は一九〇九年ロス・アンゼルスに於て通過した。この法令はその條規に於て反動的であつて、カリフオルニヤ及び合衆國の最高法院

によつて後援されてゐた。その法令によつて規定された唯一の制限は、建築物の使用に關してゐる點で市の或部分を工場區域とし、その他の區域を住宅區域として保存した點にある。最初の包含的地帶法令は、一九一六年に紐育市によつて採用されたものがそれである。

地帶制定（Zoning）は、今日の都市計畫の分野に於ける最も通俗的な運動である。建築物の高さ面積、使用を規定することによつて、地帶制定は財産の價値を保證し、住宅地域の保護を確實にする。とはいへ地帶制定は、都市計畫事業の中の一に過ぎず、包含的の都市計畫は市の生活——公共的半公共的、私的——に於けるあらゆる要素を包含する。これ等の諸要素中には街路組織、交通取締各車の整列、運送組織、橋梁、水道、瓦斯、電氣等の如きものゝ設備、下水道組織、公園や遊戲場公園大道の設置、水路の配置、學校組織、地區の小分、建築線、地帶制その他の各部分を包含してゐる。

如何にして都市計畫は成り遂ぐるか

よし、それが最良の都市計畫であつても、紙上に引かれた複雜な線に過ぎないのであつたならばそれは大した價値がない。社會の生活に重要なるものとして感せられてあるために、これを主張し實行してあらねばならぬ。而して之れを實施するためには、都市計畫局又は都市計畫委員會が設けられてあらねばならぬ。此運動は合衆國では、私人が手始めをなしそこから出發した。即ち商業會議所とか、改善協會とか、その他、之れに類似の市民團體が、實驗的に又豫備的にこれをなし、之の後公の當局者によつて着手さるゝに至つてゐる卽ち一九〇七年合衆國に於ける最初の永久的の都市計畫委員會がコンヂクチカット州ハートフォードに任命せられた。

その法令の下に都市計畫委員會がその職能を始むるに至つたのであるが、その委員會は社會の正しい發展に對し計畫を設くる可く依頼されてある

之の委員は普通報酬を受けざる有志者等より成立してゐる。此問題を特別に研究した人々、公共的精神を有し、團體事業に於て活動的な人々、組織の才能を有し、公の事業の委員を援助し、都市計畫事業を實施する必要を市民をして自覺せしむるために、これを教育するに能動的な人々で委員たる可きである。之れが可能なる市では、都市計畫の專門家を委員に加へ、又はその委員會の顧問たらしむる。而して此專門家は建築家又は園藝技師土木技師、又は法律家等の都市計畫に關し特別なる研究をしたる人々である可きである。

或州の都市計畫法令では、該局の委員數を或數に限つてはゐるが、併し必しも限る必要はない、幾人かから成り立ち得る。五人若しくは九人の委員位が、善き働をなし得る群たり得るも、併し三人の委員よりなる小團體であつてもよい。多くの委員よりなる委員會は不便利であり、固まり惡い小なる委員會程に能率的でない。大抵の都市に於ては、これ等の委員は市長によつて任命さるゝ習慣となつてゐる。小なる市に於ては委員は投票によつて選擧さるゝが普通になつてゐる。而して委員は成る可く長い間同一の職にあつて奉仕さるゝが望ましいことであつて、しかすれば委員の更迭によつて、その仕事が阻止さるゝが如きことなく滑かに進行し得る。委員の任命期間は多樣であつて、重任することも屢々ある。經驗ある處の人々がこの仕事を續けて行くのであるから、これは望ましいことである。

該委員會の仕事の三方面

都市計畫委員會の仕事には三方面ある。

(一) 計畫 (二) 助言 (三) 計畫の賣擧

第一に計畫を作らねばならぬ。その第一歩として市の通覽、地圖を造りその市の現在の狀態を明に示す可きであらう。大抵の處では、都市計畫は尠くとも市のより古い部分を、再築することにある。或處では最初より全然新しい計畫を樹てゝ出發する市もあるが、多くはその市に既に存在してゐる處のものを如何にして最もよく用ふ可きか、即ちこの既存の物の必要に從つて或は附加し、又

は變更して行く處の問題が主になつてゐる。

更に該委員會は助言的である可きである。これは勿論、該委員會が地方の統治的機關に取つて代ると言ふ意味ではないが、然しこの統治機關と協力し、既に存在してゐる處の諸々の局に對し、助言者となる可きであらうと思ふ。又市の各局がその方面々々でやつてゐる仕事の如くならずして、その市の生活全體に對して計畫を樹つ可きである委員會が市の法律によつて、この計畫を施行す可き權威を與へらるゝは極めて稀である。かく法律によつて權利づけられてゐないことは、極めて賢明なる仕方であつて、若しも該委員會がその組立ての細目に亘る點をも法律によつて重荷を負はさるゝと、常に將來の必要を研究し、又常に前進す可きこの團體としての能力が阻ばまるゝ如きことになる。

計畫委員會の重要なる仕事は、樹てたる計畫を受けとらしめ、これを遂行することである。これには自然に教育事業が必要になつて來る。即ち印刷物、講演、展覽會、活動寫眞、學校、教會、圖書室によつて教育をす可きである。最も重要な點は、若しも此計畫にして實施さるゝならば、如何なる結果が齎らさるゝか、又如何なる利益が彼等に與へらるゝか、又若しも此れに反して此れが實行されないならば、如何なる損失が彼等の上に覩面に現はれて來るかといふことを、公衆の前に描寫的に具體的に示し ドラマライカリーに描き出して強き印象と理解とを與ふ可きことが、最も重要である。委員會は民衆が自分等の仕事に對して有望であるといふことを見る處迄その教育を與へその理解を得る種々の方法を取つてあらねばならぬ。若し此仕事が十分になされ投票權ある民衆に積極的態度が現はるゝならば、委員會の計畫は、民衆によつてそれが受け取られた後にも、それが生きて行く。即ち實行さるゝ望みにある。その計畫が單に受け容れられた丈けでは十分でない。唯だ容れられて机上におかれ、忘れ去らる樣ではならぬ。多くの計畫が兎角左樣いふ具合になり易いのであるが、それが實行されねばならぬ。貧弱なる計畫はこれを排し、善き計畫はこれを後援する

丈けの眼識を養ふ可く市民を敎育することが必要である。

州の法令

米國、四十八州中の二十一州は未だ州全體に亘る都市計畫に對する法令を有つて居らぬ　而して之れ等の廿一州中の僅かゞ、都市計畫法と共に市を有してゐる。たとへばメムフイス●テンネツシイファルゴ等である。バルテイモーアのマリイランドは地帶制定の法令を有する市をもつてゐる。而して都市計畫委員會の設定と、地帶制定との法案が一九二二年の立法院に提出されたが通過しなかつた。ワシントン州ではスポーケン及びシヤートルの有志者が明年の律法院に法案を提出することゝなつてゐる。殘る二十七州中の二十州は法律上の權利を附與せられたもの、若しくは計畫委員會の制定を要求してゐる處のものである。

次の表は地帶制定と都市計畫に就ての州法を示したものである。

州名	地帶制定	都市計畫
カリフオルニヤ	一九一七年	一九一五年
コンネクチカツト（一の市）	一九二一年	一九一九年
ゲオルギヤ（一の市）	一九二一年	一九二一年
イリノイス	一九二一年	一九二一年
インデイアナ	一九二一年	一九二一年
アイオア	一九一九年	一九二一年
カンサス	一九二一年	一九二一年
ケンタツキイ▲	一九二二年	一九二二年
マサチツセツツ	一九二〇年●	一九二一三年
ミシガン	一九二一年	一九二一年
ミネソタ	一九二一年	一九一九年
ミツソリイ	一九二一年	一九二一年
ネブラスカ	一九一九年	一九二一年
ネバダ▲	一九二〇年	一九二〇年
ニユー●ヂヤーセイ	一九二一年	一九二三年
ニユー●ヨルク	一九二一年	一九一六年
ノース●カロリナ▲	一九二二年	一九二三年
オハイオ	一九二一年	一九二一年
オレゴン	一九一九年	一九一九年
	一九一九年	一九一五年

ペンシルベンヤ　（一九一九年　一九一一年
ロード・アイルランド　〜一九二一年　〜一九一三年
サウス・カロリナ　｜　一九二一年
テンチツシイ　｜　一九二〇年
テキサス　一九二一年　｜
ベルモント▲　一九二一年　一九二一年　｜
バアヂイニヤ　一九二二年　｜
ウイスコンシン　一九一七年　一九一七年

▲は計畫委員會に地帶制定の權許可
㊟は一九一四年修正

各州の地帶制定法はこの細目に於て異なつてゐる。がその法の目的は凡て同一である。建物の高さ面積、使用に就て規定し健康と財産を保護しこれを安全ならしむる。地帶の規則は異なつた區域に於て異なつてゐる。併し同じ型の凡ての區域には同一である。州に於ける計畫委員會の設立を支配する法律は主に任意法である。マサチユセツツの法律は一萬人以上の人口の都市及び都邑に對しては受任者であつて之れよりもより小なる都邑に對しては任意法である。普通州法で委員會の委員でないもの、又唯書記であるものはこの仕事に對して報酬を受くることゝなにてゐる。

州局

州局はカリフオルニヤ・マサチユセツ・トペンシルベニヤの三州に存してゐる。

カリフオルニヤの州局は一九一三年に制定したる移民と家屋の委員會である。移民の米化に關するその義務に加ふるに、遊戲場やその保養慰安場に就ての諸々の設立を奬勵し、又更に都市や都邑に於けるセツトルメントやソーシヤル・センターを設立すること、又移民の住んでゐる家屋の狀態を調査することの委任を與へられてゐる。更に最後に、

『該委員會は移民及び勞働者の住宅の調査、又カリフオルニヤに於ける都市計畫その他の調査をなし得。地方都市計畫委員會の設立を奬勵し、かかる委員會の使用に對して他市の進歩に關する報告を供給し得。缺陷ある家屋とそれより生ずる結

果たる弊害とを調査し、又カリフオルニヤその他に於て此れを正するためなしてある事業を調査し報告し得、又建築及び共同家屋法、家屋費用及び課稅、地價、區域の取締の實施勵行を研究し、又民衆に對する健全なる家庭の供給の增加を企つる機關の形成を增進し得』

凡ての計畫委員會は州局に報告することを要求されてゐる　而して州局は報知及び助言にをもつて委員會を助け得る權を與へられてゐる。

マサチユセツツの公衆安寧局は一九一一年に造られ、一九一九年に廢止おられた邸宅委員會の仕事を實施してゐる。その義務は之れが都市計畫の範圍に關係する限り左の如くである。

『委員及び局は缺陷ある家屋と、それより結果する害惡と、それを矯正し一般の幸福を計る可き事業を調査す可きである。又建築法案と共同家屋に關する法案を研究し、地方計畫局の設立を奬勵し民衆のための健全なる家庭の數を增加を企つる機關し形成を增進す可きである』

知事及び州會の贊成に從ひ、公の基金をもつて市民のために共同家屋を供給す可き特別な力が與へられてある。カリフオルニヤ州局の如く地方政府外び局と協力す可く要求せられてある、ペンシルベニヤ州局は內務局內の大都市部として一九一九年に設立せられたのである。

最初の部分的の地帶制定法が、二十四年前に通過して以來、都市計畫委員會又は地帶制定を許可する州全體に亘る法律は二十七州に於て通過して居る。即ち米國全州の半數よりも三州が多くなつてゐる譯である。一九二一年には地帶制定法の大多數が通過した。かくして更に都市計畫の價値を實際に證す可き開拓者としての事業は、カリフオルニヤ、マサチユーセツツ、ニユー・ヂヤーセエ、ニユー・ヨルク、オハイオ、ペンシルベニヤの六州の肩に落ちて來てゐるものである。

米國都市の給水問題

米國では近頃此飲料水供給問題が八釜しい樣である。清水を豊富に如何にして供給す可きかといふは、地方都邑の問題であるばかしでなく、大都

都市の場末及近郊の問題である。英國でも矢張りこれが問題とせられてゐる樣であつて、その結果は"The Donchester Regional Planning Scheme"の復雜な報告的著書となつて現れてゐる『飮料水を適當に供給することは恐らく都市生活に於ける最も根本的な問題である。而してこは常に困難な問題であるが、別して近年英國の工場區域に於て益々困難な問題となりつゝある』とその中に言つてゐる

ボストン市の周圍の諸々の有力なる都邑が、その都邑に關する何等かの企をなすに協力して、これに當る可き仕事の企てられたのは三十年前であつて、これに參加した都市都邑の數四十、而して水道、下水、工事、公園組織等各々の都市都邑の施設に協力し來つたが、然しその各地方の問を聯絡し、運輸交通の事柄に就ては未た何等の計畫もれてられてゐない。此必要に應ずるために、公の而して永久的な『大都市計畫局』なるものを設置せんとする運動がある。

紐育市第二十五回記念祭

五月二十八日から六月二十三日迄、グレーター・ニユー・ヨルクの二十五回アンニバーサリーが催ほされる。會場はニユーヨルク市の中心マンハツタン中のレキシントン・アヴエユーと四十四街のグランド・セントラル・パレユスである。紐育市廳の五十九のデパーメントの展覽があり、又廣く都市問題に關する講演會が催され、米國の各部分から送らるゝ都市局の長や市長等のコンフヘレンスなども催ほさるゝ。斯かる企が市民にその市の運轉機關に就ての知識を與へ、彼等をしてそれに興味をいたかしめ留意せしむるに到るは言ふ迄もない。

× × ×

埃及旅行記 (二)

工學博士 八戸成蟲樓

ギザ見物

十月十六日 (日曜、好晴)

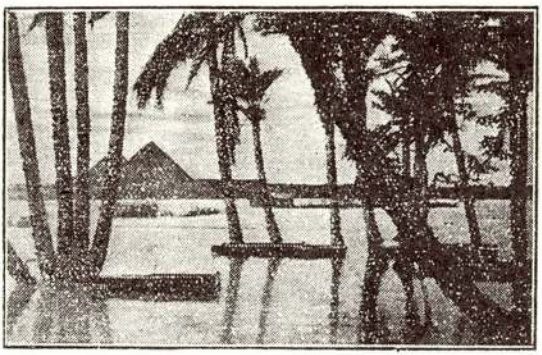
ギザ行の電車はAtabe el-Khadra (アタベルハドラ)の廣場から出る、こゝ迄宿から近いがサラーに重い籠入の辨當を持たして歩かせるのも可愛想と同情して、宿から數十歩のBoulak通の角から此廣場迄市街電車にのり、こゝでギザ行の電車を待つ。私は寶形塔見物に最も安價な乘物を撰んだのである、電車は一等車及二等車の二臺連結であるが、二等は殆んどいつでも滿員で、一等に多少の空席があるのは、巴里でも開路でも同じである今日もいつもの通り二等は滿員であつたから、一等を奮發したら一人前片道四十ミリーム(約四十錢)で、凡そ一時間餘りかゝつた。

やがて電車ナイル河を渡ればそこが即ちギザの町で、こゝから大寶形塔の所在地迄道路は一直線に通じてゐる、此路の一側にはアカシア樹を他側にはユーカリ樹を植ゑ、道路の兩眼の及ぶ限り砂糖黍玉蜀黍綿の畑が連り、其間には田舍に珍らしき洋風の住宅が所々に建つてゐる、此等の住宅は廣大なる耕地を有し多くの小作人を使役する大百姓の家で、彼等は夏期かゝる所に住し、冬期開路市へ歸るのであるといふ。

漸くにして所在地近くなると、道路の兩側は一面の水で、棗の木が水の中から生へ、陸の一寸出てゐる所には人家が點在してゐる、勿論かゝる家に住んでゐる人々は、この大路へ出るのには小船によるのである水の深さは、大概平均一尺位だといふ。これが所謂ナイル河の汎濫だそうで、かくして泥

土を沈積せしめ、土地を豐饒ならしむるのだそうである。豫てきいてゐたナイルの汎濫とはこんなものか、成程百聞一見に如かずであると感服をした水の中から生へてゐる棗の木立の間から遠景に寶形塔をみたところは甚だ絶景である。

ナイル河の汎濫（ギザ附近）

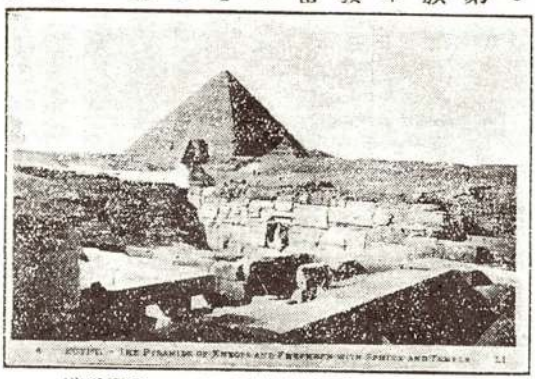


電車の終點は即ち塔の所在地で、リビア砂漠の一端にして、こゝには Mena House Hotel 郵便局、警察署等がある。下車すると旅客待受の土人等數名、駱駝に乘らん事を勸めたが、一切排斥して徒歩第一寶形塔に向つた、途中馴々しく話かくる歐人あり、彼は寫眞師にて記念寫眞の撮影を勸めしが、應せずして前進すると觀覽切符賣捌所の前へ來た蹲つてゐた一人の男が立ち上つて後ろからついて來る、態度が面白くないから何者かと訊くと、番人と答ふ、暫く進んで王室並に女王室の分れ途へ來ると、此所から王室迄が所謂 Great Hall であつて、上の方は黑暗々で懷中電燈や蠟燭では到底何物も見えぬ、恰も此時彼の番人は懷中より何物かを取出して案內人に渡す、案內人は私に向て五ピアスタァを彼に與へられよ、然らば此のマグネシユムに點火すべしと。成程うまい考へである、そこ迄は氣がつかなつたが、折角此所へ入りながら內部の樣子を見ざれば何にもならず、其目的を達するには此際マグネシユムに及ぶものはないのである、五十錢でも一圓でも償の高下を云々すべき場合ではない、即ち點火を命じた、かくして此大室を初めとし、王室並に女王室共例令一瞬時にせよ隅々迄明瞭に眼底に印する事が出來たのであつた。

外部へ出ると案內人は多少の心附を要求したが元より巡査立會の上決めた料金であるから 應せ

ずして約の通り五十錢を與へ、不服なら巡査に訴へよと言つて歩を進めた、これで無事内部の見學を了つた。

次に第二を見て第三を巡り、其東側に沿へるニ Funerary Temple (Temple of Tomb) 葬禮堂に入り、東方に引返し、に出た。此れは第二十六王朝の家族墓で、一八三七年に Vyse 大佐が發見したもので、當時の英國總商事ヤメル大佐の名をとつてつけたものである。上部は全部破壊して了ひ、今では上からのぞいて見る事が出來る、こゝから人面獅子像の後ろを通つて Valley Temple of Khephren (クフレン堂) へ出た。



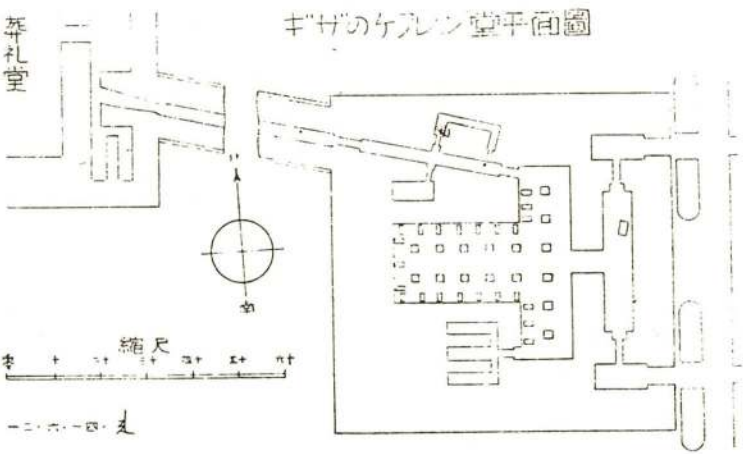
クフレン堂・人面獅子像及クフレンの寶形塔

砂漠に於ける此人面獅子の後面は、其色といひこゝで案内人四五人先を爭ひ互に口々に罵り合ふ此時警備の任に當れる巡査來合せ、彼等を取鎭め中の一名を選び内部を案内せしむる事とす、内部觀覽料は五ピアスタア(約我五十錢)である、此時私の案内人のサラーは豫て相談しておいた通り、案内料と心附——Bakshish といふ——とにて五ピアスタア丈け與ふべしと新に此所で雇入たる案内人に言つたので、私は五ピアスタアの銀貨(我國の新五十錢銀貨位の大さ)一枚丈けを隱しへ入れ所持金全部を豫め要意したる手提鞄の中に入れてサラーに保管を命じてから内部に入る要意をした、蓋し規定の料金以外に如何にしても多少の金を與へざるべからず、彼等は一切恥を知らぬ、事實上の鐵面皮な埃及の下層民に於いて見る事が出來るのである、金錢以外に何物も彼等の眼中にないのである 旅人の前に立ち塞り手を延べて金錢を要求するは正當なる權利の如く考へてゐる。多額の金を所持して内部に入り殆ど全部を强奪せられたこの話は屢々聽いたところである、例令誇張の言にせよ要心にしくはない

から右の様にしたのである。

ギザの大寶形塔は今更事新しく述ぶる迄もなく其大さ並に寸尺等に就ては、如何なる建築歴史を繙いても一番先きに記してあるし、また苟も建築に志す者は誰人も知つてゐるのであるが、今これを眼前に見ると實に其大きいのに驚くのである、私の入らうとしたのは最大なる第一即ちケオプスのである。此入口は當初は地上四十九呎の高さにあつたのであるが、今は基部から二十呎斗りが地中に埋つたので、極く樂に入れる、讀者の中にはいくら埃及でも三十呎も埋る事はあるまいと思ふ方があるがも知れぬが、こゝは前にも記した通りリビア砂漠の一部で、少し風が吹くと砂は自由に動く、五千年の間に三十尺は極て少ない方であるもつと埋まつてゐたのを大分に堀つたのであらう日本の様な土地でも僅に千三百年の間に北方に連れる緩傾斜地から流れた土砂で、法隆寺西院歩廊の隻石垣を全部埋めて了つたではないか。況や砂漠に於ておやで、埋つて了ふのが當然である。

扨て此入口から案内人について入ると、そこに形ざいひ宛然たる大松茸である、此大松茸は元と一石より刻み出され、僅か不足の部分を補つたのであるさうで第二即ちケフレンの大寶形塔建築中の職人等が、自然に多少獅子に似た様な岩があつたのを工事の手すきにケフレンの似顔をもつた獅子に刻み上げ

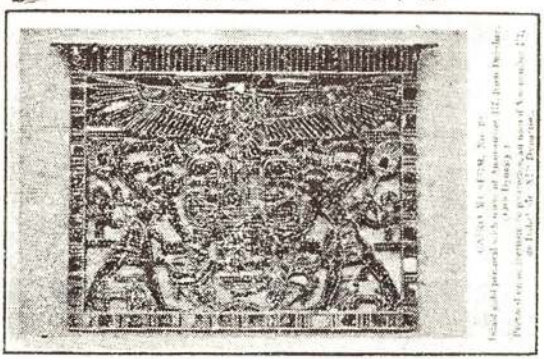


たのであらうといふが、或は左樣かも知れぬ。

此人面獅子は西紀前一四五〇に Thutmosis IV. によつて發掘され、其後トレミー王朝及び羅馬時代に於いて何度も修理されたのである。又後に至つて Mamelukes（出後）はこれを標的に用ひたりして人工的にも破壞を逞くしたが、最近一八一七年 Caviglia なる人が全部を發掘した際、前肢の間に一殿堂を發見したさうであるが、いつかまた埋つて了ひ、今は首から上と背とが出てゐる斗りである。記錄によると總高さ六十六尺、前肢の先端より尾端迄一八七尺、顏巾一三尺ありといふ、そして尙ほ現在でも相當雄大なる記念像の一たるを失はぬ。

此人面獅子の近くにケフレン堂がある、一八五三年マリエットの發見するところで、近頃迄 Granite Temple と呼ばれてゐた、最近一九〇九―一〇にかけて Von Sieglin の探見隊によりて完全に發掘されたのであり、建築史に多少なりとも趣味を有するものゝ見逃すべからざる堂である、此堂はケフレンの大塔及葬禮堂へ通ずる道の入口に建てた一種の聖殿である。建坪約方一五〇尺にして、

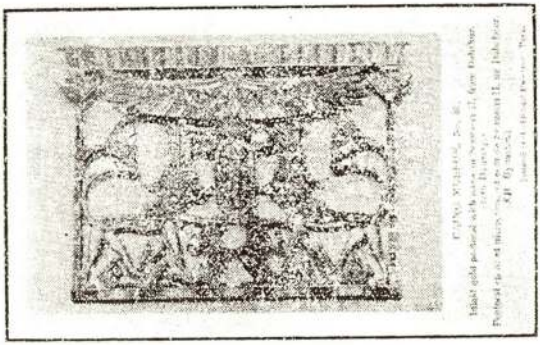
第十二王朝の金象嵌胸飾



大室と小室とは撞木形に接續し、大室には十本小室には六本の花崗石方柱建ち、尙ほ此二室の壁に沿ひて、元と二十三軀の大像立ちしが、今其大部分を失ひ、今は僅に其臺座を殘すのみ、內數軀は開路市の埃及博物館に藏せらる。此小室より更に通路で出の狹い前室に通ず、こゝにある井戶からマリエットは今埃及博物館出陳のケフレンの像を發見したさうである、小室の南端からは貯藏室に通じてゐる、此室は上層及下層に分れ、各層三室づゝある、小室の北端から西北に進むと、左方に一室あつてアラバスタアより成る、右方には屋上に達する階段がある、尙ほ續て西北

に進めば前記の葬禮堂に達するのである。但し此室の創建年代に就ては諸説あつて一定しないが、第二寶形塔と關係を有するのであるから或は其時代を距る事遠くないのであらうか。

堂の見物を了つて外へ出ると、今朝案内人の爭ひを取鎭めたる巡査が未だ去らずに佇立してゐた此堂の案内人も性質不良であるから恐らく巡査は保護の任に當つたものと見えたので感謝の意を表し獅子像の前を過ぎんとした時、美々敷裝ひたる駱駝を牽き來れる土人があつた、私に連りに其駱駝に乘りて記念の撮影をせられよと勸めたが、必要なし撮影を欲せずと斥けて第一寶



第十二王朝の金象眼胸飾

形塔に向ひ、其東に沿へる三基の小寶形塔の内最西端のものゝ北側の階段形に積まれたる石上に休憩して、牧羊館より持參の辨當に空腹を醫したのであつた。

私共の休憩した小塔の東方約百尺餘りに一つの墓がある、サラー曰く此墓は三年程以前に發見されたもので、ケオプスの娘が結婚後間もなく死去したので此所に埋葬したのであると、私は其眞僞を知らぬが、墓の四壁には例の薄肉彫刻があり、玄室の入口には面白い柱が同一手法で刻してあつた。

此所より東の丘上には各時代の古墳多し、此邊で最後に見たのは、約一ヶ月前に發見した斗りで目下發掘中につき一般の觀覽は許可せぬが、特にと勿體をつけてサラーが引張り込んだ墓である、果して一ヶ月以前の發掘にかゝる否や知らぬが、兎に角輕便軌條を引込み、土運車をおいてある等一見發掘中なる事が分る、内部へ入つてみると、我國の土砂に埋まれる古墳の如く、時には匍匐せざれば通れぬ所もある、奥の一室には夫婦の棺が

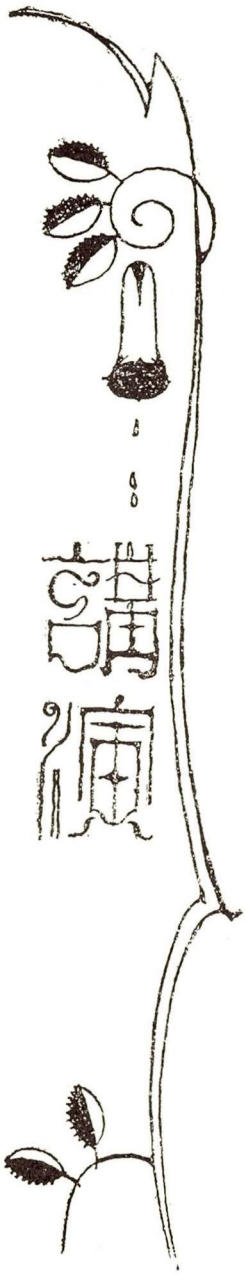
並び、其近くの下より七八尺許り掘り上げた現在の天井――無論土天井で何れ地上迄掘上げるものと思ふ――の土の間からは、脚の骨や骨盤や木乃伊等が出かけてゐた。

以上で見物を了り、電車終點のメナ、ハウス、ホテルの庭で小憩の後、電車にて歸路に就き、歸宿したのは夕刻であつた。但し歸りは二等であつたから、賃金は往の半額卽二十ミリームであつた

渡歐の途次開路市並に大塔を觀覽した人々に、私は滯歐中遇ふ毎に樣子を訊いてみたら、甲は大塔の內へは可成二人連れで入るがよろしい、獨りの時は用心せよと敎へてくれた、乙は埃及には追剝や强盜許りの樣な口吻であつた　丙は大塔見物の爲め乘物から下りたら、可成徒步にせよ　駱駝は埃及氣分はするが大して愉快なものではなし、其上駱駝人足が約束以外に金を强要して煩に耐えぬと注告してくれた。私は此等の注告を斟酌し、總て徒步し其上細心の注意を拂つてゐたから、幸ひに何の損害もなく無事見學を濟ましたのであつた。

本紀行前號中左の誤植あり訂正します（編輯者）

		○正	誤	表
頁	段の行	誤	正	
六三	下、七	碇泪	碇泊	
仝	下、一二	日本商船	日本商店	
六六	上、一二	横暮	橫暴	
仝	上、一六	Ra-Hep	Ra-Hotep	
六八	上、一一	南側の兩堅	南側の兩壁	
仝	上、一三	Minatet	Minaret	
仝	下、一三	Itifiiyah	Itifiiyeh	
六九	上、一	廣場に出ると	「に出ると」四字削	
仝	上、二	Mida Zaladin	Midân Zaladin	
仝	上、一〇	似てある	似てゐる	
仝	下、六	共俤	其俤	
第六七頁插圖下		胡座せる書記の緣は像の誤		
第六八頁	同	ソンタルは「ソルタン」の誤		



汚水淨化裝置に就いて

工學士　米元晋一

（一）緒言

都市に住民が密集し益々公共衛生を重んぜねばならぬ樣に進歩した時代に於て我邦の如く近代式の下水施設が無いと云ふことは甚だ危險のことは申す迄も無いことである。然るに時勢は駸々として進化し大都市に於ては西洋式高層建築が盛に建造せられ且普通家庭に於ても衛生思想が次第に養成せられたのと尙又屎尿排除處理の手段が年々圓滑に行はれ無い樣になつたから西洋の樣に水洗便所を造つて水道の水を使ふて屎尿を普通汚水と混流排除する願望は日に加はつて來たのであるが我邦の樣に都市に完全な下水施設の無い所では斯樣な汚水水運式の方法は實際行はれない現狀を鑑みると家庭内若しくは建築敷地内に小規模の汚水處理施設が必要を生じて來たのは當然のことである。幸にして先頃發布せられた市街地建築物法施行規則第

十二條の規定に基て地方廳が布告した其取締規則に從て宅地内に汚水處理槽を設置するならば便所廢水を普通下水管に放流しても差支無いことゝなつたとは諸君が既に承知せられる所である。而して此取締規則を公示せられたのは未だ關東に於ては大正十年に於ける東京警視廳關西に於ては大正十一年に於ける兵庫縣の二府縣のみであるが追々他府縣に於ても此取締規則が布告せられるであらうと思ふ。歐米諸市では最早や下水施設が行屆て居て便所廢水は直接に下水管内へ排除して差支無いのであるから此種の取締規則は唯單に田舍の貧弱な都市の外行はれて居ないのであるのに我邦では東京大阪を始め六大都市以下悉く此種の取締規則に依らなければ便所廢水を下水道に放流することが出來ないと云ふ現狀であるのは甚だ遺憾で有る依て吾人は都市少くも大都市に於ては一日も速かに下水改良工事が實行せられて現在の樣な不便不利な境遇から脫却し得ることを希望する次第である。乍併此希望の達せられる時期は尚前途遼遠であつて宅地内に於ける小規模の汚水處理裝置の必要は今後相當長い間續くことゝ思ふ。

今夕御招待に依つて大阪に於ける建築諸大家に對し私が從來多少研究經驗した汚水處理法に就き概要を御紹介する機會を與へられたことは私の非常に光榮とする所である。

尚茲に御斷りを致度いことは問題の汚水處理法は普通汚水や水洗便所廢水を處理する方法であつて工場廢水に對するものでは無いことである。工場廢水に對しては特殊の處理を要する場合が多いのである。

又講演中住宅用又は小人數用汚水處理と云ふ言葉を繰返すが之は普通住宅は勿論事務所建築、學校旅館、公署等の樣な稍規模の大きなものをも含むのである。

(二)汚水處分の順序及原理

汚水處分の順序は(第一)に汚水中に抱含する浮游形體を分離除去し(第二)に溶存有機體を酸化作用に依て無害の無機體に變化し最早や腐敗の程度を進めぬ樣定着性（スタブル）のものとなして之を水體に放流す

るとも其水中から酸素を過度に吸收せしめない樣にすることである　水中から酸素を過度に吸收するときは其水體は腐敗を始め惡臭を放散する樣な衛生上からも又美觀の上からも惡影響を與へることになるのである。

汚水中から固形體を除去する必要は無機性體よりも有機性體の除去に大に注意を拂はねばならぬ。有機性固形體は溶液に比較して衛生上からも美觀上からも極めて醜惡有害な結果を招致するのみならず（第二）次の酸化作用を受けさす場合に固形體は液體に比すれば其作用が微弱であるから清淨効率を高める點から考へても之を豫め除却することは極めて必要のことである其他固形體の分量が多い場合には濾過層を塡塞するに至るものである。

上揭（第一）次の行程たる浮游固形體を分離除却することは濾格（スクリーン）の樣な器械的に杆止するか或は單なる重力作用に依るか又は藥液を加へて化學的凝集力と重力作用と相俟て沈澱させることによつて遂行することが出來るけれども（第二）次の行程たる溶存有機體を酸化して無害の無機體及液體に變化さすべき階梯は極めて複雜のものである。英國のデイブデイン氏に依れば下水中に包含する窒素、水素及炭素と結合するに充分な酸素を下水に混加して硝酸、炭酸及水を構成せしめなければならぬ。例へば下水中の有機性窒素を硝酸に有機性硫黄を硫酸に又有機性炭素を炭酸瓦斯に變化せしめねばならぬ　尙附言して次の如く言ふて居る凡そ下水中の物體を分解し且終局の破壞に利用する手段は（一）重力作用（二）細菌作用（三）酸化作用（ポーデアート）で有て此細菌作用と酸化作用とは互に相依從的（バイオケミカル）のもの卽ち細菌的化學的のものであると。

汚水清淨に對して細菌作用が甚だ重要なる役目を持て居ることは近時益々主張せられるのであつて歐米諸大家の意見を綜合して見れば次の樣である「汚水清淨の原理に注意するのに二樣の細菌が利用せられる。其一は嫌氣菌（エーロビックバクテリヤ）其二は好氣菌である。而して前者は物體が空氣無き所或は少くとも空氣の補助なくして腐敗に依て有機體を破壞して瓦斯體及液體並に灰、腐蝕土の如き無機體に還元さす所の媒介者であつて後者は酸化すべき物

體と酸素とを結合さす役目即ち媒介者に立つものである」。

而して普通汚水處理法では以上(第一)の行程を相當經過したる後(第二)の行程に進んで遂に終局の清淨の目的を達するのであつて(第一)の行程中に嫌氣菌が活動すれば有機性固形體の殘渣を減少するものである。

(三)汚水清淨標準

汚水を清淨に處理するに付ては其標準を如何樣にして宜しいかと云ふ問題が起つて來るのであるが之は一に汚水の性質や汚水が放流せられる所の水體の性質や土地の狀況等に應じて決定せねばならぬのであつて受放流水體の性質や土地の狀況が異て居る所に對して劃一的の標準を設けると云ふことは合理的とは謂はれないのである。

元來汚水處理の必要は一に受放流水體の汚損防止を主眼とするのであつて其水體の流量が多い時には不潔の汚水を之に放流しても間もなく混淆稀釋せられ次で自然淨化作用が行はれるから水體を汚損することが少いけれども若し水體の流量が汚水量に比較して餘り多く無い場合には稀釋程度が少く從て自然淨化が充分に行はれ無いが爲に放流に先だつて豫め汚水を相當處理しなければならない。又水質が清淨な受放流水體は已に不潔になつた受放流水體よりも自然淨化作用がより良く營まれるから美觀上の問題から離れて言へば汚水處理の程度を低下しても差支無い道理である。又若し水體が下流で飲料水に使用せられるか或は水泳場として利用せられる場合には其然らざる場合に比して清淨處理法が最も嚴格に行はれ無ければならないと云ふ樣に個々の場合に順應したる標準を設くべきであらうと思ふ。從て受放流水體が已に非常に不潔になつて居るから之に放流する汚水は左迄清淨處理する必要は無いと云ふ議論は間違て居ると思ふ。斯の如き場合には從來水體が汚穢せられた原因を除き水質の改良を謀ると同時に汚水處理の方法をも併せて行はねばならぬ譯合のものであると思ふ、此理由に基いて英國では河流の大さと其水質の清淨程度に應じて各河川に放流する汚水處

理法を區別すべきことが提唱せられて居る。之は英國に於ては下水處理に對する王立委員會が永らく設けられて居たが其委員會の決議提唱があるのである。

偖汚水清淨の標準を檢定するがために歐米諸國で普通採用せられて居る主要な項目は次の如くである。

（一）殘存固形物量（放流水一〇、〇〇〇分に付き）

（一）間 月假物量 同　上）「メチレンブラウ」脫色試驗（時間）

（二）酸素吸收量（同　上）

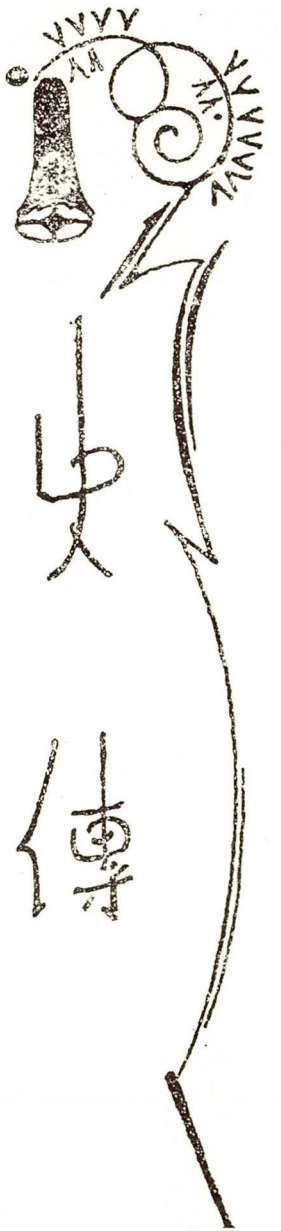
（四）類似蛋白性安母尼亞量（同　上）

（五）硝酸、亞硝酸の反應有無

我邦の都市は未だ此標準を示された所は無いが東京の警視廳令、兵庫縣令に於ける水槽便所取締規則中に項目を揭げて放流汚水の汚度に制限を加へて居るのみである。

死なんと云ふにあられども
ひとり出て佇みぬ
——たゞ青くとほきあたりは
波よする近きなぎさは

涙ながれやみがたく
海の明けがた海の暮れがた
たとふればふるき思ひ出
けふの日のわれのこゝろぞ。



イニゴ、ジョンズ生誕三百五十年紀念に際して

池田谷久吉

十六世紀末、暗黒の英國建築界に赫耀たる光明を放ちて純正英國ルネッサンスを建設したものはイニゴ、ジョンズである。

丁度本年七月十五日は彼の生誕三百五十年に相當するので些か彼の業蹟を紀念せんがために彼の傳記に就て少し書いて見よう。

彼は西暦一五七三年七月十五日倫敦の街端れスミスフイルドの片傍りの羅紗屋の職人の兒として生れて細々とした窮迫した生活の内に育てられた

漸くにして十五六の時哀れにも定つた教育すら與へられずに聖ポール寺院の境内にある指物屋へ年期奉公の弟子に遣らせられた、然し、彼の持つて生れた繪畫に對する素質は若葉の如く勢よく萠え出でた。

折しもペングロック伯爵の彼のターレントを認めて一六〇四年に彼を伊太利へ旅行させた。當時彼は伊太利各地に殘る雄渾莊麗な古代建築の菁華を朝夕に眺めることが出來る樣になつてから旅行の目的たる繪畫の研究から離れて專ら建築藝術の嘆美觀賞に沒頭しかけた、時にヴキセンザに於て當代の名建築師バラヂオに就てその構造方面にまで進入した。

彼はその後丁抹のクリスチヤン四世に招かれてローゼンブルグとフレデリツクスブルグとの宮殿を設計したと傳へられてゐるが確證がない。之は多分エヂンバラに於ける彼の作、ヘリオツト病院によく似てゐるところから彼の作だとゐつてゐる

間もなく歸英してゼームス一世に仕へたが當時沙翁以來演劇が非常なる力を以つて普及され、殊に帝室に於ても娛樂の主要なるものとして假面劇が流行してゐたので、早速オツクスフオード大學に於て興行された。假面劇の舞臺裝置を手始めに數十の舞臺配景の書割に、裝置に、衣裳に彼の天才的特技を振つた、主として彼はかの有名な劇作家ベン、ジョンソンの假面劇に終始關係したのみならず、彼自身もステーヂの人として立ち働いたことさへあつた。こうした方面の活動は彼が伊太利に於ける風景畫及び建築の研究が齎した結果であつて、これ迄の幼稚な舞臺裝置がこゝに初めて移動舞臺が出來て迅速の進歩を見たのであつた

一六一二年に再び伊太利に旅行した。尤も此度は伊太利に於ける古建築の考古學的研究を目的として出掛けたので、先づヴェニス、ヴキセンザ、ローマ、チボリ、ナポリ等に遍歷した。

彼は一六一五年に倫敦に歸つてその秋、ゼームス一世から內匠寮頭に親任されて愈々建築界に身を投じて、伊太利式の直寫ともいふべきスタイルを形成して宮殿に城廓に別莊を自由奔放なる手腕を振つてバラヂオ氏の再現の感あらしめたのであつた。

彼の晩年は表れにもかなしき境遇に、老ひの身を養つてゐたのみならず、自己の生命さまで賴んでゐたセント、ポール寺院の改築、ホワイトホールの再建さへも實現されなかつた。

一六五〇年の夏　彼はジョン、ウエヴに遺言してその執行者と定めて一六五二年六月二十一日サンマー、セットハウスに於て七十九歳の高齢を以て遂に溢焉として其雄魂を天に歸し　その遺骨は二十六日セント、ベネット、チャーチの内陣奥深く父母の側に葬られたのであつた。

彼の紀念碑は一〇〇磅を投じてセント、ポール寺院の玄關に浮彫で作られたが、殘念にも例の『大火（グレートファイヤ）』の爲めに燒失して終つた。

ジョンスの風采はどんなであつたかは當時バンヂックによつて描かれたものが、最初ウエヴの所有であつたが　後にサー、ロバート、ワルポーロの手に歸して現在ナショナル、ギヤレリーに保存されてゐるものが最も信ずべきものである。

作品に就て

彼の建築に於ける黄金時代は實に一六三〇年から一六四〇年迄の十年間であつた。尤も途中『内乱（シビル）』勃發に際して工事中止の難に遭つたもの等があり、また彼の設計に基いて死後に於て完成されたものがある。

彼の手によつて竣功されたものは約八十位もあつたが、大火に於て殆んど全燒して終つたことは返す返すも英國建築史にとつては惜しむべきことである。

今これを種類の上から考へて見るに、別莊はその約三分の一を占め、寺院建築　宮殿建築、城廓建築といふ順序になつてゐて、學校建築は極稀である。

◆チルハム城

倫敦の東方五〇哩のところにあるケント州にあつて一六一四年に起工、一六一六年に竣工した彼の初期の作である。正面はE字形をなし煉瓦造の過渡の實例の一つである。

◆クイン、ハウス

グリニッチにあつて一六一七年に起工したが一六三五年に至るも竣功しなかつたと傳へられてゐる。現在ウオーチエスター大學に保存されてゐる平面圖によると宮殿は長方形のものであつた。

◆リンコン、イン、チャペル

セント、ポール寺院の西方一二町程のところにあつて一六一七年起工、一六二三年に竣功した彼のゴシック式の作品としての唯一のもので非常に注意深い建築である。キング、ゼームス、ゴシックとさへ渾名された傑作の一つである。

◆ホワイト、ホールの饗宴殿

ウエストミンターの北五丁テームス河の埠頭の西にあつて一六一七年起工、一六二一年に竣工したもので最大傑作である。もとヨーク、ハウスのあつたところで、敷地二四エーカーあり。歐洲に於ける最大の宮殿たらしむる設計のもとに巴里のルーヴルの右に出づるべき筈であつた

その形は長方形にして七つの庭からなり、六つの四角形を造り、中央の一つは他の二つの部分よりも大であり、これ等を再び三つの庭に小分されてその中央の一つは北側にあつてアーケードを持つ二つのギャレリーがある。南側には圓形のベルシャン式の庭があつてこれ等の直徑は二一〇呎もある大なるもので、地階はオヴン　アーケードによつて取り圍まれてアーチの間の柱には人形　以つて装飾して論及の餘地なきまでに成功してゐる

そしてその上階はコリヤタイドを以つて各窓の間を装飾の頭部にはコリンシャン、キャピタルを持つて支持し、オーダーのエンター・ブラチユアの上に通り越して全體がバラスト、レードによつて仕上つゐる。

ウエストミンスターの方は正面の長さ一一五二呎公園の方の長さは七二〇呎の大建築であつた。今は痕くにして長さ一一五呎、巾六〇呎、高さ五五呎のものを殘すのみである。

◆ヨーク水門

埠頭公園内にあり、一六二六年起工したもので倫敦に於ける装飾門としては最古のものに屬してゐる。名石工、ニコラス、ストンの施工になり小さいながら傑作である。

◆セント、ポール、チヤーチ

コヴエント、ガーデンにあつてクラシカルな切妻屋根の小建築であるが、一六一三年起工、一六三八年竣功した。石と煉瓦とで建てられたもので英國博物館に設計圖が現存してゐる。

◆セント、ポール寺院

大火の爲めに燒失した後、サー、クリストフアレンによつて再建されたものが現存のものであるが、その燒失前はよほど腐朽したのを彼によつて補修されたと共に妻の改造、コリンシヤン、オーダーを用ひたことを讃美したことが古文書に出てゐる。

◆デンビン州に於ける橋梁

一六一三年、彼はスパン五八呎の橋梁を架設し動搖を客易に止めたところの科學的構造の傑作である。

◆アシュバーハム、ハウス

一六四〇年に竣功したもので、作品中最美のもので一七三一年の失火によつて、一部分は燒失し其の後、屋階(アテック)だけは增築されてゐる。

◆リンドセー、ハウス

リンドセー伯爵、ロバート、ベルチーの爲めに建てたもので、石の女闕を磨き、煉瓦の柱とは現存してゐる。

◆ウイルトン、ハウス

一六四〇年に起工、一六四八年竣功したものでウエヴが彼の設計に基いて施工したものである。

◆コ・スヒル

バークシヤーにあつて一六五〇年に長方形の平面に建てられ、ワルポーロは『彼の趣味の最善の努力の結晶の一つである』といつてゐるほどに彼の個性の遺憾なく發輝されたものであつたが一九世紀の初め頃、ウキルキン氏によつて改造變更されてゐる。

以上は極めて代表的傑作を列記したものである尙彼の數多くの設計製圖はジョンズからウエヴに讓られ、次にウイリアムの手に移るときに決して勝手に處分してはならぬことを命じておいたが終にこの命は無駄となり　現今では四散し漸くにしてソーヌ博物館及オックスフオードのウオセスター大學等に保存されてゐる。　（了）

× × ×



郵船ビルデインングの新築

（東京建築界だより）

文學士　黒田鵬心

一

丸の内ビルデインングが東京驛前に雄姿を現はしてからつゞいて郵船ビルデインングが建てられ、相いで竣工を告げた。郵船ビルデインングは所謂丸ビルの西に隣し、濠端に沿ひ、前には廣い道路を距てゝ東京海上ビルデインングに對してゐる。

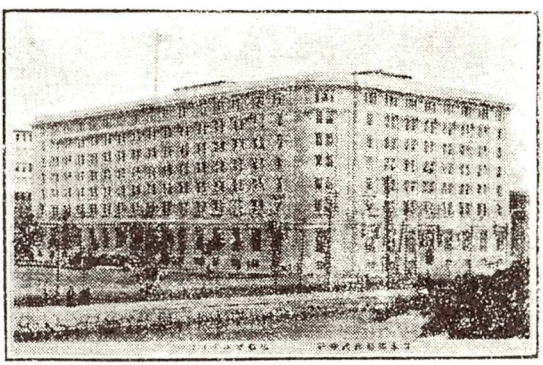
此の道路は東京驛の中央から直角に宮城に向かつて濠端に達し　其の廣さ二百四十呎、有名の四里のシヤンゼワゼーの廣通に次ぎ、帝都の玄關として十分の廣さを持つてゐる。而して我が郵船ビルは丸ビル、海上ビルと共に實に其の前に位置してゐるのである。將來丸ビルの前に建てられる建築と共に、實に四つの好位置を占めてゐる。しか

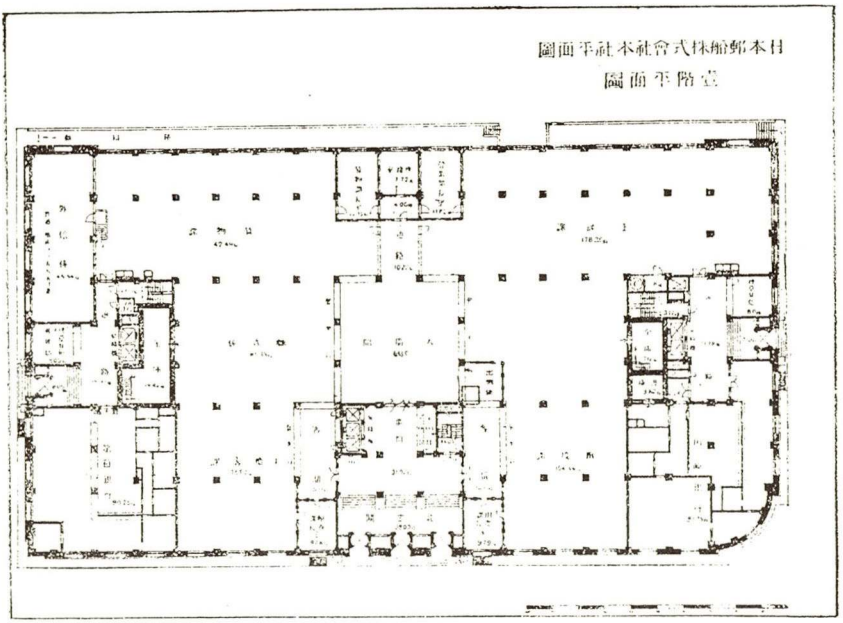
も郵船ビルと海上ビルとは東京驛には接してゐないが濠を距てゝ宮城前の廣場に接し、位置としては一層好いと云はねばならぬ。

江戸時代の天守を有する宮城と、これも江戸時代の名殘なる濠と石垣と松とを背景とする建築としては、我々は何か趣のある——換言すれば變化のある輪廓を持つた建築が欲しいと思つたが、第一に建てられた海上ビルは、極端に單純な輪廓を以つて現はれ、當時我が國に始めての此の程の大建築として人々を驚かした。それは確か大正三年の事である。其の後十年ならずして同じ樣な輪廓の建築が澤山建てられ、今では珍らしくもないが當時は田舍者を驚かすに足りた。

二

其の大なる點では、確かに一種の裝美を有するがあまりに單純で、單調に流れる感はある。或る者はかゝる建築は美術的建築では無いと云つた位である。併し塔があつたり、窓の形が變つたりしてゐるものが必しも美術建築の全部では無い、東京海上ビルにも確かに美點があり美術的建築として都市の美觀にも役立つてゐると私は信じてゐる唯あの位置としては、もう少し工夫はなかつたかと思ふ。尤も大都會を貸事務室とする建築としては用法に適した設計だと云はねばなるまい。話が海上ビルに計り走る樣であるが、同じ樣な位置に先へ建てる建築は、後に建てらるべき建築に或る條件を與へる點で、大に關係があるのである。其の條件とは、後に建てるべき建築は、先へ建つた建築に調和すべきもの、少くとも不調和のものであつてはならぬ事である





日本郵船株式會社本社平面圖
壹階平面圖

既に海上ビルが建てられた以上は、郵船ビルは之れに調和する建築でなければならない。後の建築は、先の建築に調和すべき義務があるのである。故に始に溯つて考へると、先に建つ建築にはそれ丈けの重い責任がある譯である。此の點で、比較的先に建てられた日清生命は甚だ困つた建築である。後から建てる建築が如何に日清生命に調和しやうとしてもそれは無理である。現に日清生命の隣には全く違つた形の建築が建てられ日清生命獨り不調和に殘されてゐる

若し離れた敷地を有し、獨立して觀賞する事が出來るならばよいが、近接して建物が出來る敷地であつたならば、最初に建てられる建築は、將來近接して建らるべき建築の模範となり、先覺たる覺悟でなければならぬ。此の點で日清生命が日本風の破風を用ひた事は明かに失敗であり、海上ビルの四角の單純な形は成功したものと云はぬばならぬ。最も海上ビルの形が最上のものであつたかどうかは疑問である。寧ろあの位置としたものは多少の遺憾があるが、あの附近の建築の先覺

者たる値はある。

兎に角海上ビルが先へ建てられたのであるから郵船ビルは是非とも之れに調和させねばならぬ。斜ではあるが、丸ビルも之れを參酌する必要はある。幸ひに郵船ビルの設計は、丸ビルの設計と同一の曾禰中條建築事務所に托されたゝこれは實に都合のよい事であつた。同一の設計者であれば、少しも自己を僞らずして、徹底して兩者を調和せしむる事が出來る。違つた設計者が十分の調和を計らうとすると、場合によつては自己の趣味の一部を犧牲にせねばならぬが、郵船ビルの場合はさう云ふ事がない。

三

扨て郵船ビルの建築は、『工事概要』の記載によれば

起工　大正九年十一月二日
竣工　大正十二年五月二十六日
敷地面積　東西二九六尺五、南北一七六尺
一三八四坪四四
建物面積　東西二八八尺　南北一五二尺
建坪　一二一八坪九三　延坪八四三八坪五三
階數　地階付七階建　別に一部屋階あり
高さ　地盤より軒扶欄上端迄一百尺

構造は云ふまでもなく鐵骨鐵筋混凝土造で、壁體は煉瓦積となつてゐる。形は大體四角で、濠と大通に通じた角を曲線にとり、入口は大通に向つてゐる。大體海上ビルと同樣で、外部壁面の色も同樣である。壁面は腰部高さ約六尺五寸を花崗石とし、扶欄上端までは全部米國グラツデイングやマクビーン會社製テラコツタ貼で、其色はやゝ黃味を帶びた白色で感じがよい。丸ビルは可なり赤味を帶びてゐるが、赤煉瓦の東京驛とは漸次濃くなつてゐて了度いゝかもしれぬ。東京驛前の北方には工業倶樂部と大川事務所、最近竣工の興業銀行とこれも色が漸次違つてゐるが、この方はあまり感心しない。

郵船ビルは遠くから見ると、四角なマッチ箱のやうであるが、よく見ると相當の裝飾が施され、實用一點張ではない。この點は丸ビルと比べては

すつと優れてゐるし、海上ビルと比べてもまさつてゐる。又腰部が花崗岩である爲めに、其の材料の美しさが現はれて居る。テヲコツタも普通の白色貼は煉瓦よりも感じがよい。

内部は社長室、副社長室、重役室等に相當な裝飾を施し、デスク、椅子、卓、欄等を備へてある外、比較的簡單に出來て居る。これらの室にはカーペットやシャ　デリヤなど多少趣を變つてあるが、今より記憶しないから一々述べない。東北隅の第百銀行支店の造作の手法に一寸面白い點があつたやうである。

猶續いて日本興業銀行の新築を見たから次にはこれを紹介しやうと思ふ。

（六月二十四日於東京）

起き出でて裸足に立てる朝庭の
冷き土に媚ぶるこころか

北米の一都市から

山邑弘

▲立派なキリスト教的紳士▲濃厚と枯淡▲米國田園都市の一實例▲急がば廻れ。

立派なキリスト教的紳士

例によつて一つ一つ無關係な題目によつて書くから、そのつもりで讀んでいたゞきたい。

自分は米國に來て嘆美す可きキリスト教的の人格の人々に可成り合つたが、就中溫雅玉の如きレファインされたキリスト教的品性の人に二人合つた。一人は加州にあるストルヂ博士である。他はプリンストン神學校の實際神學の教授アードマン教授である。しかも不思議なことに二人ともに日本の愛好者である。その宅に行つて見ると、日本の繪畫や、床の置物や、陶器類などが可成りにある。これは日本人との接觸が多いために、自然その人々から寄贈せられたものもあらうが、自ら好むが故に進んで蒐集されたものも多い。先般アードマン博士の宅へ招かれて行つたが、食器部屋に飾つてある陶器類の殆んどが日本製品である。

ストルヂ博士はその殆んど半生以上を、カリフオルニヤ州にある多くの日本人キリスト教會（プレスビテリアン派）の總理として日本人のために間接直接に盡された。氏の指導を受けて、現在日本で多少社會的地位を占めて居る人も尠しはあるが、併し顯れざる處に働らく人々を世話をして引き立てられた數は算へ盡されぬ。博士は僅かなる己の報酬を割いて苦學せる日本の學生を助けられた教會にあつても隱德を屢々せられた。その屬す

る教會に物品をさゝぐる時にも、人に知らせざる樣に密かにせられた。博士は社會的野心なく大聲を發せず、隱れたる處に靜かに滿足せられてゐる。

博士は元來純粹の傳道者でなくして　醫學博士であるが、殆ど本職は隅に隱れて、寧ろ專門の傳道者の如く見誤らるゝ程に、傳道のために盡されてゐる。氏の性格は詩人である。日本の詩を譯されたもの、又自ら作られた詩で出版になつてゐるものもある。

氏は學者でもなく、大に事業をあぐる能力に富む人でもない。併しその品性はそれ等にまさつて語らず行はざるに、唯默して坐する時にも、溫雅な美しい光をはなつてゐる。

今は海靑く、砂白く木綠なる日本の風景を偲ばしむる加州カルメルに隱退せられてゐる。

アードマン博士は多年の素志を遂げて達して昨春より昨秋にかけて東洋に遊ばれた。歸來早々ペンを取つて『極東の門內に』といふ小冊子を著されたが、日本のことも可成り書いてある。表紙には日本の神社の鳥井が書いてある。門の象徵であらう。今はその書物は二版になつてゐる。先日招かれた時一冊贈られた。

博士はプリンストン神學校にある敎授中、一際立つて日本最貧の人であつて　毎年日本人の學生を呼んで饗應せられる。

博士は、ストーヂ博士よりも活動的である　併しその最も優れた處は、この學殖よりも能　よりもそのリファインされたキリスト敎的品性にあるプリンストンには、日本に對して興味を持つてゐる人々が可成り居る。ジユリアン・メトリーワといふこちらの評論家で、曾つてヴアンダビルト等と共に日本に遊んだことのある人であるが、その節、日本から非常な歡迎を受けたせいもあらうが兎に角、日本に對して好意をもつてゐる。

右の點と大部、これは關係が薄いが、序いでに書き加へておく。先般プリンストン大學の現總長ヒツベン博士から午餐の招待を受けた。その前に一度プリンストン大學と神學校に居る外國人學生が凡てテイ・パーテイに招かれた時行つたことが

あるが、この午餐には客はその朝、大學のチャペルで說敎をした、聖公會派のカレッヂの總長をしてゐるベルといふ丸々と肥つた人と、大學の敎授二人と私と總長夫人とである。昔、前大統領ウヰルソンの住んだ總長老宅で、堂々たる家である。割合に落ち着いて話すことが出來た。

總長は、毎日曜日の朝禮拜に定つて司會をする廣いマッシイブなチャペルに學生は一杯集る。毎日定つて行はるゝ小さいチャペルでも禮拜にも總長は必らず出席してゐる。宗敎を無視する甚しい幼稚な無知な考へからではあるが——日本の學校では見られぬ現象である

ヒッベン博士は　素朴な直な愛相のあまりない人で、丁度日本の古武士の神神を體現した人、漢學の善い處で鍛えた人をキリスト敎化した樣な印象の人で、身體もあまり大きくなく、肥氣の薄い枯れた人である。カルビイニズムがこんな處に迄現れてゐるかと思へば面白く感ぜられる。氏は哲學が專門である。

濃厚と枯淡

今更言ふ迄もないことであるが、西洋文明は人中心の文明であり、東洋文明は自然中心の文明である。これを自分は今身親しく經驗しつゝある。處によつて違ふけれども　例へば自分の曾つて暫く滯在した加州のサンアンセルモの如きは、日本の景色と一味相通ふ處のある牧歌的調子のゆたかな、のどかな田舍味の充溢した處であるが、併し全體として米國の景色は廣漠としてゐる。大きくて廣いが、デリカシイやおだやかさやさしさ、人の情緒をひたりと打つ樣な點が缺けてゐる。自分の今居るプリンストンは景色のよい處であるが、景色を形造るものは、廣い綠の芝生、青い木。處々に〇池と川が廣い打ち開いた土地に點在してゐるので、美しい花などにも乏しい。左樣した大きさはあつてもデリケートさのない自然が幾分の原因となつてゐやうが、人々は家庭と家庭の集合である社會とに滿足を求める。而して人の集合する處、その建物、その食物、その服裝、その運動、

その音樂、その繪畫、凡て濃厚であり、強烈であり、刺戟的である。これに機械文明の生んだ樣々の交通機關が一層その度を強める。

食物などでも肉中心の肥氣の多いものが主となつてゐるために、自分などは弱つてゐる。魚肉は餘り彼等が好まぬため、餘り食卓に上らず、野菜は高價なために極めて僅の種類しか食卓に現れない。日曜附錄の十六頁の寫眞版に現れる寫眞も樣々な運動——主として婦人の、婦人は男子のやることは何でもやる——や華麗絢爛な服裝の社交界その他の婦人などで主として埋つてゐて、近頃は見る丈けでウンザリしてしまふ。恰も肉氣の多い食物に飽いた時の心持である。

こちらに居ると、あの日本の俳句などに現れた枯淡な趣や、潤のある『自然』や、『自然』の中に解けこんでゐる人生を親はしく思ふ。

尤も日本などの生活狀態をチョイ々々活動寫眞に寫される時はウンザリしてしまふ。だいぶ前に見たのだが、フエース・ツウ・フエースといふ題目で日本の生活狀態を紹介してある活動寫眞である始めに堂々たる軍艦が現れる、何處の國のものを持つて比較してもひけはとらぬ。處がこの次から現れる繪が大變である。全く段違ひである。銀座の交通狀態が寫る。低い貧弱な家並み、人力車、稀に通る自動車、泥濘。泥除け、巡査の講習所が現れる。飾氣も何もない部屋で、長い卓子に坐つて飯をかき込む光景、夜は柏葉蒲團にしてごろごろと列をなして轉る光景。全く恥しい心持がする

マリエモント・田園都市の一實例

マリエモントはオハイオ州の第二の最大なる工業都市である。シンシナツチイ市の近くにある。『サアヴエイ』米國に於ける廣く讀まれてゐる社會雜誌——記者の言ふ處によると、マリエモントはこの産業上の發育の位置に於て又自足に對する完全なる設備に於て、米國の他の移住地に類を見出さない程に勝れてゐるといふことである。レツチウオルスやウエルウキンにこの實例を見出だす英國田園都市の模型によつてゐるのである。この田園都市の大部分は同時に出來上つたので、か

ゝる建造をなし得る程に財政上の力のあつたこと、又凡ての都市には容易に望まれぬ公衆奉仕の設備のあること　又此市の建設者がマサチユセツワ市カムブリッヂのジョンノーレンー都邑、都市計畫者であつて、彼の事業は常に他の比鑄を許さぬ興味あるものゝ多い——の設計にかゝるものである。

工業勞働者のための家屋經營の見地から此田園都市を考ふると、此市は他の市のこれに見出さない多くの敎を與へる。即ち彼等に生活の慰安と利便とを、人生の合理的享樂と團體幸福に對する機會とを確實に與へてある點、考へてある可き多くのものをもつてゐる。

此田園都市の建設者は、アリイ・エム・エメリイ夫人であつて、富有な夫人はその公共的精神から何等か價値ある仕事を企てゝ見たいとの熱誠に動かされて、此事業を始めたのである。かく實際的事務的の基礎の上に博愛的の一面が投げられてゐるのである。始め夫人は若しも己の使用してゐる勞働者等をして、高度の能率を發揮せしめ樣と思へば、よい環境の中に心持よい興味ある家庭に住はせねばならぬといふ事實に注意を向け出した。多年の間夫人はこれを心に考へてゐたが、遂に千九百十五年になつて、この目的に都合のよい位置にある。シンシナッテイ近くの一地域に土地を買ひ出した。此購入は可成りの年月を經て漸くにして完成した。而して建設構造の事業が、近世土木建築の全能率を發揮して、力強く進行しつゝある今二年にして、シンシナッテイの全工業區域に對する模範たらマリモントが十分に實現せられるであらう。

敷地は三百六十五エーカー・ペンシルベニア鐵道の幹線に位し、マデイソニヴルとプレエインヴイルとに隣接してゐる。而してシンシナッテイ・オークレエ・ノルウッドの主なる工業市の郊外から二哩を隔てゝゐるのみである。此れ以上の恰好な位置を他に求むるは困難である。生のまゝな未だそこなはれてゐない田舍、打ち開いた田舍にあつて十分にその幸福を享受してゐる。之の平坦な地形も將來の經濟的の發展を容易ならしむる。此

田園都市はミアミの小さな河に密接した高い崖の上にあつて、下の低地は或は共同の耕作地とし、又は下水排泄地とし、又は鐵道と隣接した工場敷地として非常に勝れた機會を供給してゐる。

大なる都市シンシナッティに近いのであるから此田園都市の住民はその劇場、藝術や學問にも大なる小賣商店にも容易に往復することが出來る。併し左樣でもなくとも、此マリエモントは自給自足をしてゐる。普通の商店、娯樂休養場、學校その他凡て十分善い設備の團體生活に必らずある凡てのものが備つてゐるから、都市に出なくとも事が足りる。現在の處人口五千であるが、將來一萬人迄の團體の中心となり得る可能性をもつて設計せられたのである。

此設計は便宜なる交通といふことを眼目において特別に研究せられた。一の地點と他の地點との交通が、實際的であると共に直接であり得る樣になされてゐる。主なる街路の位置は、シンシナッティ區域の一般州道組織に關係して決定せられてゐる。人の心を惹く市の中心に對角街路が聚合する。こゝには廣い地面、綠の芝生その他の草が集まり、プラアッアにも似た中央の空地の廻りに町廳、劇場、公立圖書館、郵便局、ホテルその他の公の又は半公共的の建物が建てられてゐる。而して此處には此町の各方面から眞直ぐに近づくことが出來る。敎會堂の位置は人々が易に近づくことの出來る位置に、又その敎會建物が、村の一般の姿に美と威嚴とを與へ得る位置に建てられてある。その他の注意す可き姿は、學校を伴ふ廣い遊戲場、スタディウムのある立派な競技場、人の心を惹く型の公園、テニス・コート、浴場、體育場、湖、川を見おろす崖にそふてある公衆の娯樂所である。

この町は賃金勞働者の眞の團體であるが、彼等の住宅地も餘り人口が密集せぬ樣に、一エーカーに對し六・七家族を超えぬ程度にしてある。最も下級の勞働者等でさへ、廣い部屋を保證せられてゐる。共同屋根、家屋又はアパーメント、又は半獨立、又は獨立の家屋がある。此獨立の離れた家屋は、五十呎對百二十呎から八十呎對百二十呎迄の

敷地に立つて居る。共同屋根、家屋又は半獨立家屋は、普通二十呎對百呎、又は三十呎對百呎の敷地になつてゐる。全體をよく設計し維持することに注意を拂つてゐる。個人の惡趣味やむら氣から、全體の團體の美しい繪畫が毀はされることのない樣に、十分保護されてゐる。建築材料は煉瓦又は半永久的な材料をもつてし、電力、スチーム・ヒートは全町一の場所から供給されてゐる。土なる財產は凡そ二百七十エーカーの面積である。河に云ふ低地に七十エーカー、病院の群が凡そ二十五エーカーをもつてゐる。略ぼその財產の半が區分にあてられ、四分の一が公のものゝ面積に、又四分の一が街路にあてられてゐる。街路の幅はいろ〳〵あつて一樣しない。四十呎から八十呎迄占めてゐる。五十エーカは公園に、二十エーカーは他の公の空き地に用ひられてゐる。

右の如きが主なる設計であるが、末尾に附加す可きは エメリー夫人によりて備へられた。凡そ二十五エーカーのコロニーである。こゝには夫人の工場や又は夫人と個人的に關係のある忠實な庸人であつたもので、今は恩給によつて享して居る者等のため備へられた地域である 彼等はこゝに愉快な喜ばしいコッテーチ・ホームで靜かにその餘生をたのしんでゐる。こゝにも病院がある。マリモント町の町民のため便宜を計るも、元來此恩給享受者のためのものである、恢癒期に向つてゐる患者のための家庭や仕事場もある。

急がば廻れ

此數年來バブソンといふ人が宗教に關する書物をチョイ〳〵書いて、それが仲々讀まれてゐる。日本に於ても統計や商業關係の人は氏の姓名を知つてゐるであらうが、氏はバブソン・スタチスチック・インスティテュートを創始して之れを經營してゐる人である。そこに行けば尚くも統計に關することは如何なる材料でも得られる。米國の實業社會では仲々に有力な人であるが、かやうな人が宗教に關する書物を書いて、信仰の必要なること商業や企業と信仰が密接な關係のあることを論ずるのであるから人々は興味をもつて氏の論ずる處

に傾聽するのである。

その著書中の一に『繁昌の基礎』といふのがある。自分も買つて讀んで見たが、内容は別にとり立てゝ言ふ程のこともない。分り切つた事柄である。併し此實業官なるバブソンの如き人が、今更らの如く、昔からありふれてゐる程に、實際的な普遍的な眞理、しかし可成に大切な眞理であるものを人が不思議に輕じ易いものを、自らの新しい體驗ともつて痛感し、熱誠と執拗さをもつて主張する處に興味があるのである。

その書物の中に、凡て事業に於て、使用人の力量よりも更に人物を重ず可きことが主張してある今日は餘りに力量を重じ過ぎ人物を輕んずるために、却つて急がば廻れの愚を演じてゐることを說いてゐる。而して更に實業に信仰の必要なこと、しかもいたづらな信仰でなくして、對照と重んじた合理的な信仰の必要なことを力說してゐる。何故ならば信仰は幻（ヴイジョン）を生むからである。此のウヰジョンなくして人は大なる事業を成就し得るものでないことを說いてゐる。

更に氏は忙がば廻れよ主義を說いて、その實例として一插話を記してゐる。氏が曾つて南米ブラジルの大統領に午餐に招かれた時に、大統領は氏に、今日南米と北米とはその土地の富源に於てさして大なる逕庭があることは自分は考へぬが、しかもその文明の程度に於て何故にかくも甚しい差を生じた。かその原因は何處にあると考へらるゝかと質問した。バブソン氏は大統領に、貴下自らは如何に考へらるゝかと反問した處、大統領は、自分は此問題に就て色々に考へたが、結局最大の原因は、南米最初の移住者は黄金獲得を唯一の目的として移住したに對し、北米の移住者は宗教の自由を獲得するために來たことにあると結論したと答へた、といふことが記されてある。確かに此言は仲々の眞理を含んだ言である。己の幸福をのみ求めて、他人を排する者は結局その幸福は失つてしまふ。己が富まんと欲するならば、人を富まさねばならぬ。曾てスタインのフランス革命史論を讀んだことがあるが、その中に佛革命の原因を論じた一々、政府は民を肥やすことを知らずして

彼等より奪ひ取ることを多くしたことに歸してゐるが、これは興味ある事實であり、又觀察である。

或は前便の『紐育雜記』で書いたかと思ふが、今日米國の夥しい神學校で、何處でも傳道科といふのがあつて、亞細亞、亞弗利加、小亞細亞、ペルシヤ、希臘等いたる處に行はるるキリスト敎の傳道史、現在の傳道の情況、如何に彼等がその傳道によつて精神上の開發を受けたかを研究してゐる。而して學生等がショショナリーとして出く行くことを歡迎してゐる。學生等自らは有志者をもつて每週一回各國の傳道その國の民のために祈り又每曜日の禮拜前に、各國の學生や又はその國より休暇のため歸米して學べる傳道者等に乞うて、その國の情況を聞いてゐる。又學校としても公に傳道者中の知名の人を聘して一週間位、一年二三回の講演を催してゐる。であるから學生等の精神は實に世界的である。

自分は斷言するが、彼等が各國に派遣せらるゝは、派遣する當局にも　派遣せらるゝ當事者にも政治上關心などは微塵もない。唯單に純粹な信仰上の目的から出て行くのである。併し左樣であつても結果は自然に違つて來る。こゝに面白いことに忙がば廻れの、此自然法の結果が明に現れて來るのである。日本は自己の利益の保護と、彼よりの利益獲得を唯一の目的として支那と交つてゐる米國は政府と無關係に宗敎自らが、取るに非ずして與へるために働いてゐる。その結果は如何になるか、自分はこゝに論せずとも、事實は正直にその結果を示してゐる。物質のみを趁ふ者は反つて物質のために斃され、物質を超越して精神的のものを求むる者が、反つて物質の與ふる善きものを得る。自然は面白い、我等は精神的に何等の勢力なき日本が、將來如何に成り行くか、考へものである。

話頭は別の方にそれるが、都市計畫にも左樣した精神的の方面が又必要であらう。チャールス・デイ・ノルトン――市俄古の都市計畫委員會の最初の議長で、その方面にすぐれた才能あつた人であるが、最近死去した――が、今から十ケ月前に、紐育都市計畫委員會の午餐會席上で試みた演說の一節に「都市計畫は想像力（ヴィジョン）を有する。幻影を要する。事實に對し長い連續した研究を要する。確實な財源を要するのである。靈の縱糸、手腕の橫糸而して財源、此三拍子が揃はねばならぬが、日本などの都市計畫でも誰も靈の縱糸などはそんなことを考へてゐる人はあるまい。

滿鮮紀行（二）

波江悌夫

學校と試驗所

四月廿六日（晴）

今朝もよい天氣です。ホテル前の廣場の朝風に此の方を睨んで立つ大島都督の銅像は、さすがに勇ましい姿ですが、その下には鳥籠を並べて四五人の支那人が其鳴く音を樂しむで居るのを見まして、大いに珍らしく感じました。

朝食はコーヒーとパンを取寄せて簡單に濟ませまして、九時から亦見物に出掛けます。一行の馬車は廣場を左へ民政署の建物を廻りて西通を眞直ぐに走ります。常盤橋からは西公園の新綠と電氣遊園とを左右に迎へます。馬車は阪を上つて伏見臺の學校區に入り、一行は順次に南滿工業學校や中央試驗所や、工業學校附屬の徒弟學校を參觀しました。

南滿工業學校では、今校長や尾山敎授の案內で各科の敎室を一巡いたしました。一行が興味を惹いたのはやはり建築科の部で、參考室、陳列室等でありました。

中央試驗所では滿洲特產物の研究報告に一同耳を傾けました。殊に柞蠶から織り出す絹紬や、豆を原料とする各油類の分析、マグネサイトを原料とする新材料等は興味あるものでした。

徒弟學校の實習課目には一行は大いに興味をそゝられました。左官工、鉛工、電氣工及塗師工の短期實習の効果頗る著しいのに感心したのであります。吾々も一ケ月位實際の練習をやつて見たらば大いに得る處あらうといふ動議には皆が贊成でした。

伏見臺以西の地は大連新市街地區でありますが、小崗子や沙河口を連ねて南の方星が浦を控へる平坦の地は既に主要道路も出來、山に據つた住宅地區には新築された住宅の三々五々英姿を見せますが、大連富士の麓まで一望、まだ空地でありますが此空地が新裝の建物で充塡されるのは尙十餘年の日子を要しませうが、蓋し刮目して待つべきでありませう。

一行は小崗子の支那町を過ぎました。黒煉瓦の粗造の家屋を見て驚きました、がまた同時に支那街の氣分が湧逸して居るのに感心しました。馬車は狹い道路を廻り〳〵つて中央試驗所附屬の窯業工場の門前に達しました。

此工場は磁器及陶器の製作工場でありますが、其作品の陳列室に入つて一行は驚異の眼を瞠きました。磁器に於ては北歐の製品に優り、陶器に在りてはよく高麗時代の遺品を凌ぐものあるといふ事であります。一行は次いで硝子工場、煉瓦工場を一巡しました。

午餐會と住宅區見物

一行はヤマトホテルに於ける小野木氏の午餐會に列しました。一同はゆつたりした氣分になつて雜談に花を咲かせました。御菓子が出たとき鹿爪らしい御禮を私が述べましたので小野木さんから笑はれました。ホテルに席を移してからも一同打くつろいで腰を据えました。三時になつても動かないので案內役の諸君から時間勵行の催促を受けて漸く尻を擧げました。

馬車は再び西を向いて走ります。西公園の綠蔭を縫ふて南に向ひます。白楊の下に白髮の老人が纂木を机上に並べて運命を占ふて居るのを見かけました。新裝の浴場や音樂堂や運動場の建物を左手に送迎しつゝ走ります。右手の丘には松が叮嚀に植付けられてあります。惜しむらくは此公園に清い池泉のない事でありませう。

公園の南端から左折して南山麓の住宅町に入り込みます。道は何處迄も歩道があり、高低があり住宅は夫々其趣を異にして居りますので、誠に面

白い見物であります。安井君の設計に成る一官舍の門前に馬車の止まりました時は、一同得意の寫眞機の砲列を敷いたものです。

南山寮の內部を見る事になりました。茲に大連唯一の池があります。楊の陰に蛙の聲を聞いて珍らしがりますと、冬になると此池の氷上にスケーチングが盛んに行はれると聞きました。南山寮は三階建獨身宿舍の大なるものであります。靴を脫いで廣間に入り、大食堂を見てから一二の小室內を視察し、夫れから浴室を見て退却しなければならぬ裡に時間がありません。

南山寮の後方に關東閣といふ三階建のアパートメントがあります。八百屋や魚屋が御用を伺つて居る間を抜けて、子供連の遊んで居る中庭から廊下を抜けて表へ出ます。各室內を見學するの餘悠がない程忙しく又馬車の人となります。

南山麓一帶は住宅の展覽會です。四戶建や二戶建や或は小規模のアパートがあります。皆煉瓦造であります。其入口や玄關には洋裝の子供達が遊んで居るを見て、そうだ矢張り日本人町だなと氣が付きます。內部は疊敷の室が多いさうです。

馬車は砂煙を揚げて住宅區を飛ばせます。此等の住宅區を離れると、行手に蘆葺の支那人部落が現れます。谷を越えると寺兒溝です。大連の東端になります。茲に青島から來集する苦力諸君のために築造された有名なる福昌公司があります。山迫り海近き丘の斜面に建てられた煉瓦造の一區廓でありまして二階建もありますが、群居且つ簡易の實生活を視察し、且種々の說明を聞かされまして彼等の奮鬪努力に敬服するのでありました。が歸洛三泰油房に立寄りますと赤裸々に活動しつゝある彼等の油汗を見て更らに一驚を喫しました。

講演會

ホテルに歸つたのが五時でしたらう。夕食をソコソコにして一同は今夜青年會館に於ける講演會に出席しなければなりません。私等は既に黃海の眞中で此催しの豫告を受けたのですが、大連に上陸すると到る處に講演會の廣告ビラが立てられて居るのに驚きました。そして幾度か前田松韻先生

の都合あつて來られなかつた事を殘念に思ひましたろう。それで一行は尻込する譯に行かず、五名丈出陣して次の樣な演題で當夜の責を果したのでありまず。

司會　岡　大路
所感一二
大連雜感　波江悌夫
　　島田藤

建築とエレヴエーター　谷　民藏
建築藝術の樣式　瀧澤眞弓
日本古代民族と滿州朝鮮　今　和次郎

此夜久留さんは一々私等の招介の勞を執られました。聽集百餘名熱心に私等の拙い演說に耳を傾けられた事を報告したいと思います。閉會したのは十時過でした。

こゝにして身をし淨めよあたらしき
わが日のなかにあたらしくゆけ

日本建築協會々報



田代守次君

○田代守次君を悼む

同君の心友宮嗣克二氏より左の一文を寄せらるゝ以て本會の悼辭に代ふ

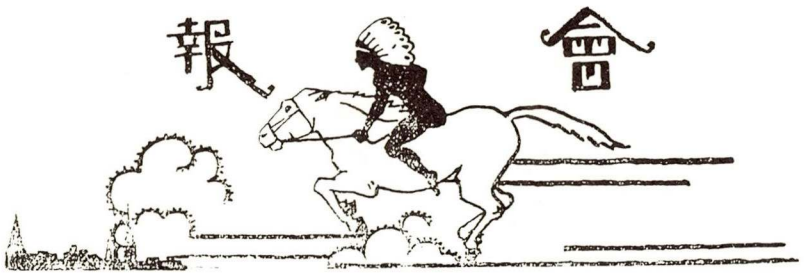
日本建築協會

森羅萬象全て初夏の氣分を含まんとする時に方り、突如として敬友田代守次君の逝去の報に接し、日頃具に圖板に向ひ、研究を共にし且つ同兄の指導啓發に預りし生等は、一層兄の他界を惜む事切なり。

兄は明治二十五年二月四日鄕里福岡縣香椎に生れ、福岡縣立工業學校を經て、大正三年三月名古屋高等工業學校建築科を優秀なる成績にて卒業し、暫く岡山第十七師團經理部附として就職、後病を得て靜養す、而して大正五年十二月神戸設樂建築工務所に入り、設計及監督に從事し、大正十年一月以來設計主任として製圖に計算に大いに努力する處あり、其間研究に餘念なく、又後輩の誘導に熱心にして大いに盡さる。

兄元來嚴强なる身心の所主者にして、設計製圖には天稟の才を有し、尙腕を磨くを忘れず、今後大いに同兄に期待する處多かりしに昨年五月自宅に引籠りて再び立つ能はず去る六月二十二日午前零時、須摩の宅に於て三十二才を最後として、未亡人と二男を殘して逝く、嗚呼何たる景ぞ。鄕里には尙父母あり、長男にして男一人なる同兄の逝去によつて落膽一方ならず、我等之を見るに忍びず。哀悼の至りなり。簡單に蕪辭を呈して田代兄の英靈を慰む。

宮嗣克二



會報

○會務

一、六月例會及通信決議により諮りし左記四氏を名譽賛助員に推薦の件は全員の賛成を得今般推薦承諾ありたり

大阪府知事土岐嘉平氏、大阪府内務部長平賀周氏、大阪府警察部長藤沼庄平氏、大阪府産業部長兒玉孝顯氏

一、本協會主記理事内藤太郎氏渡歐辭任に付後任として理事園部文雄氏主記に決定せり

一、會員田代守次氏六月二十二日逝去せられたり哀悼に堪へず本協會よりは吊狀を發送したり

一、左記會員賛助員各位の頭書御住所宛には郵便物返途致來るに付轉居先御教示を乞ふ

兵庫縣武庫郡西灘村原田九八　檜山　一男
西成郡稗島村新道九八一　坂根　秋光
大阪市北區西梅ヶ枝町八九五　田原三千男
内川治三郎方
市外傳法町北一ノ一九一　小林安太郎
大阪市北區上福島北三ノ一八〇ノ五
東京市下谷區入谷町六七　山中宗三郎
東京市外北千住中區四六　川面　萬吉
奈良市築地ノ内町二二　梅谷　孫吉
東京市牛込區水道町四四　高田清太郎
瀧川　晶

會合

○理事會

△日　時　七月九日午後五時三十分―十時
△會　場　大江ヒルヂング大洋軒食堂
△出席者　片岡副會頭、池田理事長、野呂理事、園部理事、宮本金理事、宮本長理事、西谷書記
△議　事
一、能率展覽會出品に關する件
會期十月下旬開催、片岡副會頭、宮本長理事擔任の上出品のことに可決
二、第四回講習會開催に關する件
十月下旬頃開催の豫定、野呂理事擔當の上起案
三、七日例會に關する件
左記の通決定
日　時　七月十七日（火）午後五時三十分

會　場　大江ビルヂング第九號室
討　議　帝國ホテルの建築其他
講　話　獨逸の新建築に就て
講演者　會員工學士石本喜久治氏
食　事　出席者に夕食を準備し會費として金一圓宛醵出を願ふこと
四、主記決定に關すること
主記内藤太郎氏の後任として園部文雄氏主記に決定
五、人事に關する件
六、會員銓衡

○法政委員會

△日　時　七日十六日午後五時卅分―七時
△會　場　協會事務室
△出席者　舟橋、柳下、平塚、森本、橋本、島田各委員、西谷書記
△記　事　舟橋委員より請負契約書案聯合調査會の經過に付説明をなし同會の決定報告書に付審議したる結果承認すべきものと決定し理事會に其旨報告の手續をなすことゝして散會せり

○臨時理事會

△日　時　七月十七日午後四時卅分―六時
△會　場　本協會事務室
△出席者　池田理事長、園部理事、舟橋理事、野呂理事、宮本長理事、佐藤理事、本田理事、西谷書記
△議　事
一、職員出張旅費規程に關する件
當分の間別紙旅費手當規定に據り支給することに決定（別紙規定略）
二、請負契約書案聯合調査會決定に係る請負　約書及同規程に關する件
右に關し法政委員會より報告書を受諾せり
三、大阪市立衛生試驗所主催衛生展覽會に關する件
會期十月上旬、園部理事、宮本長理事擔當の上部市の住宅に關する講演會に出演することを斡旋すること
四、建築材料規格統一聯合調査會經費支出の件
五、在大阪英國領事館照會建築材料に關する回答の件
六、其他雜件

○例　會

△日　時　七月十七日午後六時―十時
△會　場　大江ビルヂング第九號室
△出席者
講演者　石本喜久治氏
理事長　池田　寛氏
理　事　舟橋喜一氏、野呂長四郎氏、園部文雄氏、本田登氏、佐藤彰美氏、宮本長治氏
（會員）岩崎甚太郎氏、池田谷久吉氏、井上新二氏、橋本舜介氏、四田儀太郎氏、大原芳知氏、加藤善吉氏、吉木久吉氏、中村鎭氏、中川嶺八氏、中村琢次郎氏、村野藤吾氏、村上新一氏、浦英之助氏、朝永國次郎氏、宮崎治三吉氏、芝田知重氏、島田良馨氏、平木鐵治氏、樋口辰太郎氏、本野精吾氏、瀨戸文吾氏、小林三造氏、高井芳雄氏、下浦光衛氏、瀧邦一氏、岡本新二郎氏、西谷（書記）、江村（書記）、山田（書記）、清川（書記）
△記　事
一、席定るや池田理事長開會を宣し園部主記より會務報告あり次て大洋軒調理に係る夕食を共にし茶菓の饗應ありて會員交互に快談をなす
一、池田理事長の紹介により工學士石本

喜久治氏立つて一獨塊の新建築に就ての題下に一時間餘の講話あり小型の寫眞數十葉を參考に回覽に供し講話後二三名の質問ありて了る

一、次に園部主記より討議として帝國ホテルの建築に付て批評を試みられんことを希望し池田理事長より議題を帝國ホテルの建築に選びたる理由を述ぶ、村野藤吾氏、中村琢治郎氏の欠點批評、本野精吾氏、中村鎭氏の賛美說等ありて討議將に闌ならんとせしとき時間の餘程經過せるを以て次回に延期の緊急動議ありて池田理事長より閉會の挨拶ありて散會す

○住所移轉

中川彌八君　兵庫縣尼ヶ崎市中在家四五九

吉岡與平次君　大阪市外天下茶屋金光町吾妻方

東松孝時君　兵庫縣武庫郡芦屋濱

佐々木伊勢藏君　岩手縣盛岡市大澤川原盛岡コンクリート株式會社内

河合貞一郎君　滋賀縣大津市平田町三番地

○退會者

（普通賛助員）竹村近衛君、淺井豊君、平川武彦君、豊島有榮君

○死去

（會員）田代守治君

○新入會員

（會員）服部萬次郎君、芝田知重君、古塚正治君

（名譽賛助員）土岐嘉平氏、森沼庄平氏、兒玉孝顯氏、平賀周氏

（特別賛助員）中津秀三君

（普通賛助員）大野文治郎君、石井久雄君、吉住儀一君、渡部三郎君

○寄贈圖書

庭園六號同協會
住宅六號住宅改良會
建築雜誌六號建築學會
材木新聞每號同社
金屬工業新聞每號同社
經濟資料七號東亞經濟調査會
都市公論七號都市研究會
土木建築六號住宅改良會
建築世界七號同社
工業評論六號工業評論社
帝國鐵道協會々報五號同協會
建築協報七號同社
國民經濟雜誌七號賓文館
通俗衛生五號大阪府衛生會
電氣學會雜誌七號同學會
朝鮮と建築五號朝鮮建築會
工業の友六號工手學校
滿洲建築協會雜誌五號同協會
建築の普及六號帝國工業教育會
建築業協會月報六號建築業協會
新住宅七號洪洋社
電氣評論六號電氣評論社
大阪市商工時報五號市役所商工課
工業之日本七號工業之日本社
名古屋工業會々報五號同會
會報七號名古屋工業會
都人第二光都人社
住宅研究六號文化建築社
活人六號同社
工政會々報七號工政會
柊每號柊會
早稻田建築學報一號早稻田大學建築學科教室早苗用

役員及職員

副會頭　片岡　安
理事　池田　寛（理事長）
理事　本田　登
理事　竹腰　健三
理事　内藤　太郎（主記）
理事　設樂　貞雄（編輯）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　宮本　金七（編輯）
理事　舟橋　喜一（主計）

理事　佐藤　彰美
理事　園部　文雄

職員

江村　郊邨
西谷　節
山田　靜吾
清川　甲佐
伊藤二世子

會員	一二七五	會員（地方）	一〇二
名譽賛助員	七二	終身賛助員	五五
特別賛助員	二九	普通賛助員	四八七
合計（七月廿五日現在）			一〇二〇

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長　片岡　安
幹事長　葛野　壯一郎
常務幹事　波江　悌夫
常務幹事　小笠原　久銅
幹事　吉木　萬吉
幹事　松本　象一
幹事　舟橋　喜一
幹事　瀨戸　文吾
書記　西谷　節
書記　山田　靜吾

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	七拾五錢	貳錢
	十二册	九圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁ハ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十二年七月廿五日印刷（毎月壹回）
大正十二年八月一日發行

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所

大阪市北區綉笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀一四四〇番）
振替口座二（八四番）

●第六集第八号　掲載広告一覧（掲載順）

内外木工所
島田硝子製造所
内田商事
佐倉金庫店
阿部鉄工所
瀧山商店
南満鉱業
文化工業
石綿スレート
吉岡商店
辛酉商会
高谷商店
山本東作商店
亀井商店
服部禎商店
今井硝子店
大福海上火災保険

浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所

舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所
前田松本建築事務所
西原衛生工業所
葵商会
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所

野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
辰巳吉之助
清水組大阪支店
森本建築社
銭高組
清水福太郎
大阪青写真調製所
山田大理石製作所
矢橋大理石商店

須賀商会
高島屋呉服店
コルク工業
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
川崎工場
砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
米山製作所
日本木材工芸
都市工業

大理石工業
ベニス工房
作田工務所
鈴木製作所
城口汚水処理研究所大阪支店
米本栄商店
田中タイリング商会
浜口商店
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
日本ホロタイル
岩崎商業
日本工剤
小野田セメント製造
日本建築紙工大阪出張所
岡部商会
黒宮建築事務所
木下商店
下里商店

東洋コルク工業
田中昌司商店
二和商会
高田商会
政正
桐田商会
大阪窯業
旭硝子
日米板硝子
関西ステインド硝子製作所
山中商店
HANKEN SEISAKUSYO
森川組
金剛商会大阪支店
北小林酒井衛生工業部
サカイブン
積善館
筑紫商会
横河橋梁製作所

田中源太郎商店
極東板硝子工業
